

樺太民政署マカサ支署官報 第貳號

告示 第四號

告示 第四號

一何八樹

計

本

樺太民政署マカサ支署長
明治三十八年五月廿九日
日通官報第貳號

住宅建設用材及自家用材採伐採
在住宅建設為必要ニ付此場定場
致至希望ニ付到欲圖商場研ニ付
所ニ付採伐採許可成及許可上
九記書式ニ依リ出願スベシ
追テ伐採料金ハ確定ニ徵收ス
ハ此規必令奉堅ク遵守ニ付
明治三十八年五月廿八日
年 月 日

樺太民政署マカサ支署長

事務官横田河助

住宅建設用材採伐採許可

一何八樹

目通官報第貳號

樺太民政署マカサ支署長

氏名 (印)

事務官横田河助

採伐採許可書式

一何八樹

右、自家用材採伐採許可ニ付必要ニ付此場
定場研ニ付採伐採許可成及許可上
可、此規必令奉堅ク遵守ニ付
明治三十八年五月廿九日

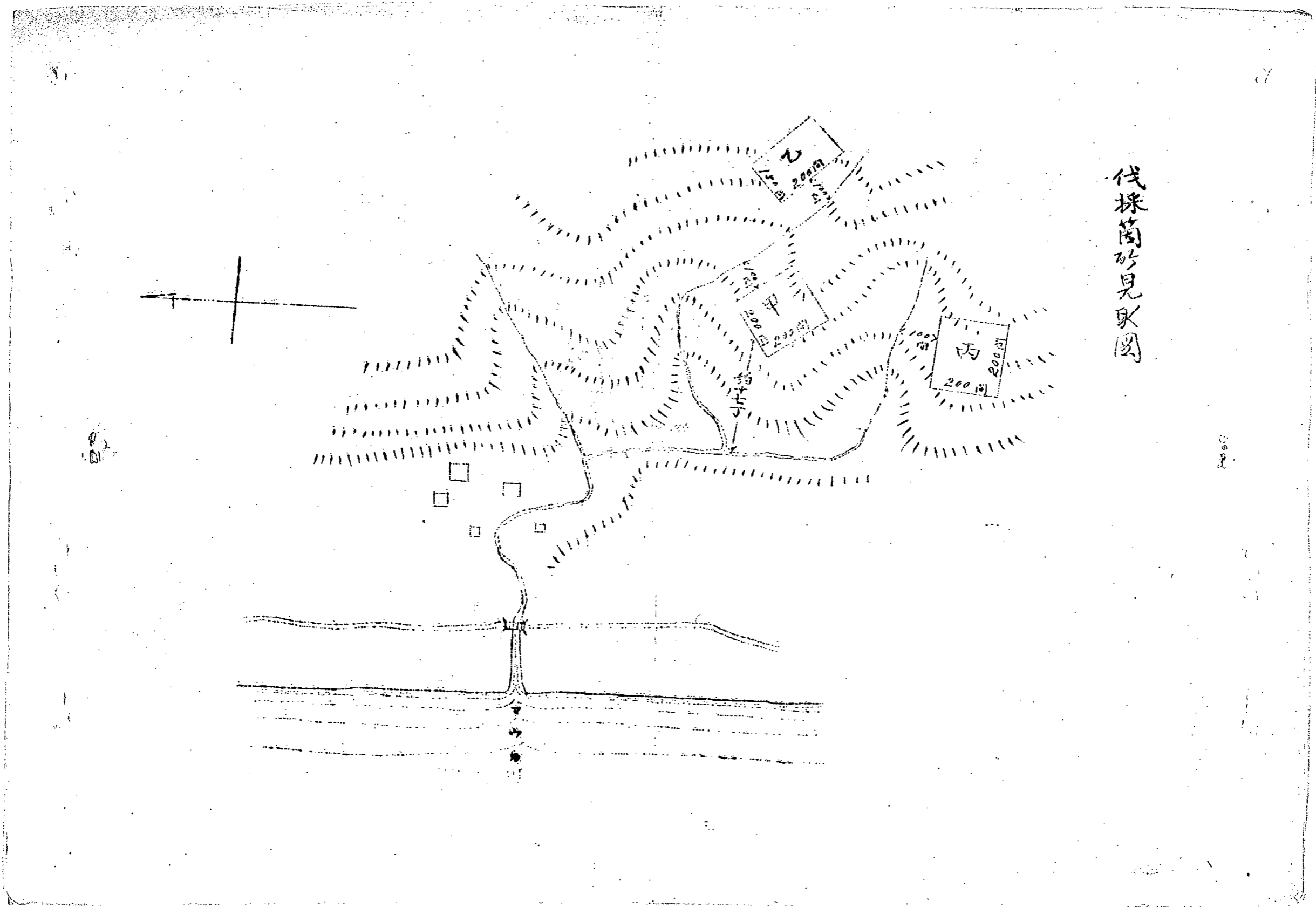
原籍

当地役所

氏名 (印)

樺太民政署マカサ支署長
事務官横田河助

明治三十八年五月廿九日



伐採箇所見取図

7-0142

0206

横太民政署工務及署官報

第...号

明治三十九年一月十日

告示

告示第五号

住宅建設用杖及薪杖伐採料金
在通相定

明治三十九年一月十日

横太民政署工務及署長

事務官 横田 御助

一住宅建設用杖伐採料金

一又三ヶ金三三銭

一薪杖伐採料金

一又三ヶ金三三銭

但古根者二割五ヶ金三三銭

定價金三三銭

7-0142

0207

樺太民政署ヨリ支署官報 第一號

告示第六号

在留露國人其他居住及移轉在出現
程尤通、相定、
明治三十九年一月五日

樺太民政署ヨリ支署長

事務官 横田御助

在留露國人其他居住及移轉

届出規程

第一条 當支署管内之居住人露國人、
清國人、韓國人及移住人ノ其外

私儀御管内ノ居住人ノ居住前在

居住届

第一号書式

ヲ得

第四条 本人、都合ニテハ當支署ニ出
頭、上口頭ヲ以テ本規程ノ届出ヲナスコ
ト得

第三条 本人、都合ニテハ當支署ニ出
頭、上口頭ヲ以テ本規程ノ届出ヲナスコ
ト得

第三条 家族ニ就キテ戸主代ニ本規
程ノ届出ヲナスコトヲ要ス

第二条 居住場所ノ移轉セシムル時ハ
第二号書式ニテ支署長ニ届出ス

第一条 家族ニ就キテ戸主代ニ本規
程ノ届出ヲナスコトヲ要ス

明治三十九年一月五日

樺太民政署ヨリ支署長

事務官 横田御助

明治三十九年 月 日

氏名印

戸主代ヲ居出ストキハ尤通リ記入

右左 氏名印

樺太民政署ヨリ支署長

事務官 横田御助

一、原籍 身分、生年月日、

二、當島ニ移住スル人其移住年月日

及其詳細ノ事由

三、當島ニ移住前ノ任所並職業

四、移住後ノ履歷

五、現ニ當ニ及將來當ラントスル職業

六、歸國希キ者有無若シ有ラハ其時
期ヲ示シ

(注意) 平常ニテ所以上居住所ヲ是
レニシテハ其外其外附記スベシ

第二号書式

移轉届

私儀今般何ノ目的ヲ以テ何ノ地ニ移
轉スル者存キテ該當ノ届出也

現住所 身分

職業

氏名印

戸主代ヲ居出ストキハ尤通リ記入

氏名印

戸主代ヲ居出ストキハ尤通リ記入

衛生局長 佐々木 忠 右 印

事務官 横田 御助 殿

（張） 飲水の本誌掲載の飲料水は在道諸國又
ノ 衛生局長 佐々木 忠 右 印

稟 報

常務課長 佐々木 忠 右 印
衛生局長 佐々木 忠 右 印
飲水の本誌掲載の飲料水は在道諸國又
ノ 衛生局長 佐々木 忠 右 印

衛生局長 佐々木 忠 右 印
飲水の本誌掲載の飲料水は在道諸國又
ノ 衛生局長 佐々木 忠 右 印

飲料水ハ材料及川水若ハ本極ヨリテ
川水ヲ引キタルモノハ材料ハ何モ成ル
余カチリテ教尺ヲ起スニ地味ノ
場合ハ煮沸及濾過スルヲ以テ安全

ナリトス

尚井戸ハ何レモ極小ノ上清浄ナリトシ
バ、朽腐タル材料例等ノ修繕ヲカ
ニ行テ或ハ其水質ヲ更変シ使用
スルニテ下ルハ

衛生局長 佐々木 忠 右 印

飲酒不度性試驗以請志

色	味	臭	性	量	質	色	味	臭	性	量	質	色	味	臭	性	量	質	色	味	臭	性	量	質	色	味	臭	性	量	質	色	味	臭	性	量	質
清	微	微	微	微	微	清	微	微	微	微	微	清	微	微	微	微	微	清	微	微	微	微	微	清	微	微	微	微	微	微	微	微	微		
微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微		
微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微		
微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微		
微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微		
微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微		
微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微		
微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微		

7-0142

0210

樺太民政署ヨリ支庁長官ニ對シテ

告示 示

告示第六号

在留露國人其他居住及移轉居出規程先通決定

明治三十九年一月五日

樺太民政署ヨリ支庁長官

事務官 横田御助

在留露國人其他居住及移轉

居出規程

第一条 當支署管內之居住及露國人

清國人韓國人及移住イヌ人ハ皆

私儀而管內何人(現住所)ニ居住欲在

居住者

第一号書式

ヲ得

第四条 本人都合ニシテ當支署ニ出頭シテ口頭及本規程ノ居出ヲナスコト

第三条 家族ニ就テハ本人代ニ本規程ノ居出ヲナスコト要ス

第三条 居住場所ノ移轉ニシテ本規程ノ書式ニテ先署長ニ届出シ

第一号書式ニテ先署長ニ届出ス

樺太民政署ヨリ支庁長官

告示第六号

候付先地事項ヲ具シテ改及居出ノ入居歸國者以テ有無モ存テ自ラ其時

明治三十九年一月五日

樺太民政署ヨリ支庁長官

事務官 横田御助

在留露國人其他居住及移轉

居出規程

第一条 當支署管內之居住及露國人

清國人韓國人及移住イヌ人ハ皆

私儀今般何人(現住所)ニ居住欲在

居住者

第一号書式

ヲ得

第四条 本人都合ニシテ當支署ニ出頭シテ口頭及本規程ノ居出ヲナスコト

第三条 家族ニ就テハ本人代ニ本規程ノ居出ヲナスコト要ス

第三条 居住場所ノ移轉ニシテ本規程ノ書式ニテ先署長ニ届出シ

第一号書式ニテ先署長ニ届出ス

樺太民政署ヨリ支庁長官

告示第六号

在留露國人其他居住及移轉居出規程先通決定

明治三十九年一月五日

樺太民政署ヨリ支庁長官

事務官 横田御助

在留露國人其他居住及移轉

居出規程

第一条 當支署管內之居住及露國人

清國人韓國人及移住イヌ人ハ皆

私儀而管內何人(現住所)ニ居住欲在

居住者

第一号書式

ヲ得

第四条 本人都合ニシテ當支署ニ出頭シテ口頭及本規程ノ居出ヲナスコト

第三条 家族ニ就テハ本人代ニ本規程ノ居出ヲナスコト要ス

第三条 居住場所ノ移轉ニシテ本規程ノ書式ニテ先署長ニ届出シ

第一号書式ニテ先署長ニ届出ス

樺太民政署ヨリ支庁長官

告示第六号

七ノ五ノ心ノ印

事務官横田脚助殿

（運回致之本誌、楊裁口ルモ在留露國人

ノ職者、職名露語訳ニ添付ス）

稟 報

高署区務課ニ於テ山口附近ノ飲料水

質定性試験ノ執行セシメ其成績別表ノ

如シ

備考

飲料水、井水及川水若ハ本極ヨリテ

川水ヨリキタルモノ、井水ハ何レモ

余ニテリ深キニ致スヲ知リ大湿地ニ

シテ多量ニ抽出スルニ由リ地下水層ニ

係リテ其共同ノ故ニ水質ニ劣リ

ノ測ハ本極ノ已ニ朽腐セヨリ

備ニ完備ニ二号三号及六号ニ修造全

カス又二号五号ハ本極ノ水道ニ

其構造修備ヨリ四号九号ハ

ラガクテ川流ノ混濁ニ由リテ

ルヲ八号僅ニ本極ノ設ケ

而シテ二号三号七号共ニ

跡以上ヲ含む中ニ三号ハ

多ク且テ有機質ヲ多ク

料適ニ六二号七号ヲ

ニ場合ニ煮沸及濾過

ナリトス

尚井戸ハ何レモ積水ニ

バ、朽腐セヨリ

ニ格ニ成ハ臭水

ニ格ニ成ハ臭水

定供全巻終

内
あ

通
高

明治三十九年三月十五日

陸軍省

牙
部
長
官

四三五六

拝啓 陸軍省長官 於今般軍令才三十三号より土地の屋敷の取付
に關する件を才三十四号より宿屋管掌取付取付令才三十五号より
下料理屋及飲食店管掌取付取付令才三十六号より宿屋管掌
取付取付令才三十七号より山林代採取付令才三十八号より
湯屋管掌取付取付令及軍令才九号より鐵丸管掌若土地使用
並ニ山林代採ニ關する件等々取付令七号より右掲載の官報才
十七号より才廿一号に至る各二部より并ニ之より才九号官報才九
号及才十号文署取付令五、六號各二部より中参考より進達より
候 此具



明治三十九年三月十五日



陸軍省 陸軍省長官 陸軍省 陸軍省

副
官
長
官
陸
軍
省
長
官
陸
軍
省
長
官

明治三十九年三月十五日

陸軍

7-0142

0214

樺太民政署官報 第十七號

明治卅九年二月十五日 木曜日
樺太民政署

◎軍令

軍令第三十三號
明治三十八年八月軍令第十號ヲ左ノ通り改ム
明治三十九年二月十五日

樺太守備隊司令官 山田 保 永

本島内ニ於ケル土地家屋ニ關シ帝國臣民ト露國臣民又
ハアイヌ其ノ他ノ土人トノ間ニ締結シタル契約ハ民政
長官ノ許可ヲ受クルニアラサレハ其ノ効力ヲ生ヤス
本令ハ明治三十八年十月十六日ニ溯リ之ヲ施行ス

正誤
第十六號官報ニ掲載軍令第三十二號第二條ノ初文 前
項トアルヲ前條ト正誤ス

樺太民政署官報 第十七號

明治卅九年二月十五日 木曜日

樺太民政署

◎軍令

軍令第三十三號

明治三十八年八月軍令第十號ヲ左ノ通り改ム

明治三十九年二月十五日

樺太守備隊司令官 山田保永

本島内ニ於ケル土地家屋ニ關シ帝國臣民ト露國臣民又ハアイヌ其ノ他ノ土人トノ間ニ締結シタル契約ハ民政長官ノ許可ヲ受クルニアラサレハ其ノ効力ヲ生ヤス本令ハ明治三十八年十月十六日ニ溯リ之ヲ施行ス

正誤

第十六號官報ニ掲載軍令第三十二號第二條ノ初文前項トアルヲ前條ト正誤ス

樺太民政署官報 第十八號

軍令

軍令第三十四號
宿屋營業取締規則左ノ通相定ム

明治三十九年二月二十一日
樺太守備隊司令官 山田保永

宿屋營業取締規則

第一條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ
所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ
一、原籍、住所、身分、氏名、年齢及從來ノ職業
二、營業ノ場所
三、樓名又ハ屋號
四、營業用ニ供スル建物ノ構造、坪數及間取ノ圖面
第二條 支店ヲ設ケントスルトキハ前條第二號乃至第
四號ノ事項ヲ具シ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受
クヘシ
第三條 營業ノ場所ヲ移轉セントスルトキハ第一條第
二號及第四號ノ事項ヲ具シ又營業用ニ供スル建物

明治卅九年二月廿一日 永曜日
樺太民政署

ノ構造、坪數又ハ間取ヲ變更セントスルトキハ前
而テ添テ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ
第四條 營業許可ノ後三ヶ月以内ニ開業セズ者ハ引續
キ六ヶ月以上休業シタルトキハ許可ヲ効ラ失フ但
シ所轄民政支署長ノ認可ヲ受ケ休業シタル場合ハ
此ノ限ニ在ラス
第五條 營業者ノ自ラ其ノ營業ヲ管轄スル場合ノ外管
理人ヲ定テ連署ヲ以テ所轄民政支署長ニ願出認可
ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
第六條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ五日以内ニ所轄民
政支署長ニ届出ヘシ但シ死亡ノ場合ニ於テハ其ノ
家族、同居人若シテ其ノ營業ニ關係アル者ヨリ届出
ルニシテ要ス
一、營業者ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ニ異動ヲ生
シタルトキ
二、樓名又ハ屋號ヲ變更シタルトキ
三、樓名又ハ屋號ヲ變更シタルトキ
四、支店ヲ閉鎖シタルトキ
五、營業ノ爲メ婦女ヲ雇入セ又ハ之ヲ解雇シタルトキ

七、宿泊人疾病ニ罹ルトキハ醫藥、食物等其求ニ應
 シ特ニ懇切ニ取扱ヘキコト
 八、宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪者其ノ他ノ者ヲ濫ニ
 宿泊人ノ室内ニ立入ラシムヘカラサルコト
 九、宿泊人ニ面會ヲ求ムルモノアルトキハ濫ニ隱秘
 シ又ハ其ノ取次ヲ拒絶スヘカラサルコト
 十、歌舞、音曲其ノ他喧噪ニ涉ル行爲ヲ爲シ又ハ爲
 サシムヘカラサルコト
 十一、腐敗ノ兆アリ若ハ中毒ノ虞アル物又ハ宿泊人
 ノ求メサル飲食物ヲ供スヘカラサルコト
 十二、結核病、癩病、微毒其ノ他傳染性疾患アル者ヲ
 シテ宿泊人ニ供スル飲食物若ハ容器ノ取扱ヲ爲ス
 場所ニ立入ラシムヘカラサルコト營業者ニシテ其
 ノ疾患ニ罹レルトキ亦之ニ準ス
 十三、營業所ノ内外、便所、流シ場等ハ常ニ清潔ニ掃
 除シ飲食物具ハ使用ノ都度洗滌シ不潔ナラシムヘ
 カラサルコト
 十四、前各號ノ外公安、衛生若ハ風俗上ノ必要ニ依
 リ所轄民政支署長ニ於テ命令シタル事項
 第十五、宿泊人ハ營業者若ハ管理人ノ請求アルトキハ
 宿泊人名簿ニ記載ヲ要スル事項ヲ告ケ又ハ宿泊人
 名簿ニ之ヲ記載スヘシ
 第十六、營業組合ヲ設ケントスルトキハ其ノ規約ヲ
 添ヘ所轄民政支署長ニ届出認可ヲ受クヘシ其ノ之

第六、管理人員又ハ雇婦女ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ヲ記載スルヲ要ス
 第七、營業者又ハ管理人ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 一、客引ヲ出シ又ハ雇婦ノ手段ヲ以テ客ヲ勧誘スヘ
 カラサルコト
 二、正當ノ事由ナクシテ宿泊ノ求メヲ拒絶スヘカラ
 サルコト
 三、附録様式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ備ヘ宿泊人アル毎
 ニ様式ニ示ス事項ヲ記載シ置キ最終記載ノ日ヨリ
 一年間保存スルヲ要ス
 四、宿泊人ノ衣類其ノ他ノ所持品ハ寄託ノ有無ニ拘
 ハラス嚴重ニ保管スルヲ要ス
 五、宿泊人ノ遺失シタルモノ若ハ其ノ所持品ニシテ盜
 難ニ罹リ又ハ紛失シタルモノキハ即時憲兵ニ届出ヘ
 キコト
 六、宿泊人疾病ニ罹ルトキハ醫藥、食物等其求ニ應
 シ特ニ懇切ニ取扱ヘキコト
 七、宿泊料ノ抵償トシテ宿泊人ヨリ衣類其ノ他ノ物
 品ヲ受取レヘカラサルコト但シ合意ノ上憲兵ノ承
 認可ヲ受ケタルトキ此ノ限ニ在ラス
 八、宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪者其ノ他ノ者ヲ濫ニ
 宿泊人ノ室内ニ立入ラシムヘカラサルコト
 九、宿泊人ニ面會ヲ求ムルモノアルトキハ濫ニ隱秘
 シ又ハ其ノ取次ヲ拒絶スヘカラサルコト
 十、歌舞、音曲其ノ他喧噪ニ涉ル行爲ヲ爲シ又ハ爲
 サシムヘカラサルコト
 十一、腐敗ノ兆アリ若ハ中毒ノ虞アル物又ハ宿泊人
 ノ求メサル飲食物ヲ供スヘカラサルコト
 十二、結核病、癩病、微毒其ノ他傳染性疾患アル者ヲ
 シテ宿泊人ニ供スル飲食物若ハ容器ノ取扱ヲ爲ス
 場所ニ立入ラシムヘカラサルコト營業者ニシテ其
 ノ疾患ニ罹レルトキ亦之ニ準ス
 十三、營業所ノ内外、便所、流シ場等ハ常ニ清潔ニ掃
 除シ飲食物具ハ使用ノ都度洗滌シ不潔ナラシムヘ
 カラサルコト
 十四、前各號ノ外公安、衛生若ハ風俗上ノ必要ニ依
 リ所轄民政支署長ニ於テ命令シタル事項
 第十五、宿泊人ハ營業者若ハ管理人ノ請求アルトキハ
 宿泊人名簿ニ記載ヲ要スル事項ヲ告ケ又ハ宿泊人
 名簿ニ之ヲ記載スヘシ
 第十六、營業組合ヲ設ケントスルトキハ其ノ規約ヲ
 添ヘ所轄民政支署長ニ届出認可ヲ受クヘシ其ノ之

シ又ハ其ノ取次ヲ拒絶スヘカラサルコト

三、飲食料ノ抵償トシテ來客ヨリ衣類其ノ他ノ物品ヲ受取ルヘカラサルコト但シ合意シテ上憲兵ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

四、夜間十二時以後歌舞、音曲其ノ他喧嘩ニ涉ル行爲ヲ爲シ又ハ爲シムヘカラサルコト

五、腐敗ノ兆アリ若ハ中毒ノ虞アル物又ハ客ノ求メサル飲食物ヲ供スヘカラサルコト

六、結核病、癩病、梅毒其ノ他傳染性疾患ニ罹レル者四ラシテ客ニ供スル飲食物若ハ容器ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス場所ニ立入ラシムヘカラサルコト

七、營業所ノ内外、便所、流シ場等ヘ常ニ清潔ニ掃除シ飲食物具ハ使用ノ都度之ヲ洗滌シ不潔ナラシムヘカラサルコト

八、前各號ノ外衛生若ハ風俗上ノ必要ニ依リ所轄民政支署長ニ於テ命令シタル事項

第九條 營業組合ヲ設ケントスルトキハ其ノ規約ヲ添ヘ所轄民政支署長ニ届出認可ヲ受ケヘシ其ノ規約ヲ變更セントスルトキ亦同

第十條 組合ヲ解散シタルトキハ其ノ主幹者ヨリ五日以内

二、所轄民政支署長ニ届出シテ

第九條 本令又ハ本令ニ依リ所轄民政支署長ノ命令スル事項ニ違背シ又ハ公安、衛生若ハ風俗ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ所轄民政支署長ニ於テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一、營業ノ停止ヲ命ジ又ハ許可ヲ取消スコト

二、支店ノ閉鎖ヲ命スルコト

三、組合ヲ解散ヲ命ジ又ハ其ノ規約ヲ變更ヲ命スルコト

四、家族、同居人又ハ雇人ノ使用ノ禁止、停止又ハ雇人ノ解雇ヲ命ジ若ハ其ノ人員ヲ制限スルコト

五、管理人ノ認可ヲ取消スコト

第十條 左ノ各號ニ該當スル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ三十日以内ノ禁錮ニ處ス

一、第一條ノ許可ヲ受ケシテ營業ヲ爲シ又ハ第一條ノ許可ヲ受ケシテ支店ヲ設ケタル者

二、第三條ノ許可ヲ受ケシテ營業ノ場所ヲ移轉シ若ハ營業用ニ供スル建物ノ構造、坪數又ハ間取ヲ變更シタル者

三、第八條第一項ノ認可ヲ受ケシテ營業組合ヲ設ケ又ハ其ノ規約ヲ變更シタル者

四、第九條第一號乃至第四號ノ命令又ハ制限ニ従ハ

タル者

第十一條 第五條、第六條、第七條及第八條第二項ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十二條 營業上ニ關シテハ家族、同居人又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者又ハ管理人其ノ責ニ在ス

第十三條 本令ハ明治三十九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 本令施行前料理屋又ハ飲食店營業ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ營業ヲ爲ス者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

軍令第三十六號

質屋營業取締規則左ノ通り相定ム

明治三十九年二月二十一日

樺太守備隊司令官 山田 保 永

質屋營業取締規則

第一條 質屋營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ其ノ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受ケテ營業スル事

一、原籍、住所、身分、職業、氏名、年齢及從來ノ職業

二、營業ノ場所及店舗ノ位置

三、屋號又ハ通稱

四、質屋營業ヲ爲シタル事實ノ有無若アラハ其ノ開始ノ年月日、場所並ニ廢業ノ年月日及營業ノ禁止又ハ停止處分ヲ受ケタル事實ノ有無

第二條 支店ヲ設ケントスルトキハ其ノ場所ヲ記シ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受ケヘシ

第三條 營業許可ノ後三ヶ月以内ニ開業セス若ハ引續キ六ヶ月以上休業シタルトキハ許可効力ヲ失フ

但シ所轄民政支署長ノ認可ヲ受ケ休業シタル場合ハ此ノ限リニ在ラス

第四條 營業者ハ自ら其ノ營業ヲ管理スル場合外代理人ヲ定メ運署ヲ以テ所轄民政支署長ニ届出認可ヲ受ケヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同

第五條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出シ但シ死亡ノ場合ニ於テハ其ノ家族、同居人若ハ其ノ營業ニ關係スル者ヨリ届出ルコトヲ要ス

一、營業者ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ニ異動ヲ告シタルトキ

二、營業ノ場所又ハ支店ヲ移轉シ若ハ支店ヲ閉鎖シタル時

三、店舗ヲ設ケ又ハ之ヲ移轉シ若ハ之ヲ閉鎖シタル時

一、本業、製造、販賣、賃貸、

四、廢業又は死亡シタルトキハ、其ノ遺族、親類、

五、家族、同居人又ハ債權人ヲシテ專ラ營業ニ從事セ

六、管理人及從業者ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ニ

異動ヲ生シタルトキハ、

第七條 質屋ハ店舖ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 營業者物品ヲ質ニ取ラントスルトキハ質置主

第九條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ權利ヲ有スルコト

第十條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第十一條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第十二條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第十三條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第十四條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第十五條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第十六條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第十七條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第十八條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第十九條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第二十條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第二十一條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第二十二條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第二十三條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第二十四條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第二十五條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第二十六條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第二十七條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第二十八條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第二十九條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第三十條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第三十一條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第三十二條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第三十三條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第三十四條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第三十五條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第三十六條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第三十七條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第三十八條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第三十九條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第四十條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第四十一條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第四十二條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第四十三條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第四十四條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第四十五條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第四十六條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第四十七條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第四十八條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第四十九條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第五十條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第五十一條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第五十二條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第五十三條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第五十四條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第五十五條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第五十六條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第五十七條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第五十八條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第五十九條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第六十條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第六十一條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第六十二條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第六十三條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第六十四條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第六十五條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第六十六條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第六十七條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第六十八條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第六十九條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第七十條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第七十一條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第七十二條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第七十三條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第七十四條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第七十五條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第七十六條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第七十七條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第七十八條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第七十九條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第八十條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第八十一條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第八十二條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第八十三條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第八十四條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第八十五條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第八十六條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第八十七條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第八十八條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第八十九條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第九十條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第九十一條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第九十二條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第九十三條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第九十四條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第九十五條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第九十六條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第九十七條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第九十八條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第九十九條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

第一百條 質置主ハ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ物品ノ疑アル

四、質物出入時間、

流質期限ハ三月以上ノ期間ニ於テ之ヲ定ムヘシ

但シ質物ノ性質ニ因ルガ又特別ノ事情アルモハハ

此ノ限ヲ在ラズ

第十四條 營業者ハ質物ヲ使用シ若ハ貸付スルコトヲ

得スルニ在ラズ

第十五條 營業者ハ左ニ掲ケル制限内ノ利息ヲ外何等

ノ名義ヲ以テスルモ金銭ヲ領取スルコトヲ得ス

一、貸金五拾錢以下ハ一月月金率

二、貸金五拾錢以下ハ一月月金率

三、貸金五圓以下ハ一月月百分六厘半

四、貸金拾圓以下ハ一月月百分三厘半

前項第三項以下ノ貸金ノ利率ハ其ノ貸金ノ額ハ各

其ノ前條ニ規定セル貸金ノ最高額ニ相當ナル部分

ニ限リ各其ノ前條ニ規定セル依ルモハハ同額

前二項ニ違背シタル質契約ハ其ノ違背セル部分交

付無効トス

第十六條 質置主ハ流質期限前何時タリトモ元利金ヲ

別擔シテ其ノ質物ヲ受戻スルコトヲ得

第十七條 營業者ハ何人ニ拘ハラズ質札ヲ所持スル者

三、質物ヲ返還セザルコトヲ得但シ不正ノ手段ニ因テ

三、憲兵ノ承認ヲ受ケ物品ヲ質ニ取リタル場合ニ於テ

ハ其旨質物臺帳ニ記載シ憲兵ノ認印ヲ求メ置クヘシ

第九條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノ

ハ消毒シタル後非テ之ヲ質ニ取ラズ得

第十條 營業者ハ附録第二號様式ハ質物臺帳ヲ製シ所

轄民政支署ニ檢印ヲ受ケ之ヲ店舖ニ備シ質契約及

質物處分ヲ爲シタル都度附録第三號様式ニ依リ之

ヲ記載スヘシ

第十一條 營業者ハ質置主ノ代理人ヨリ物品ヲ受取質契

約ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ代理人ノ住所及代理關

係ヲ詳シシ且ツ代理人ノ住所、氏名ハ質置主ノ住

所氏名ト併セテ之ヲ質物臺帳及質札ニ記載スヘシ

第十二條 質置主ニ交付スル質物臺帳ニ附録第三號様式ノ

質札ヲ質置主ニ交付スルコトヲ得

第十三條 營業者ハ左ノ事項ニ付所轄民政支署長ノ認

可ヲ受ケ店舖其ノ他見易キ場所ニ掲示スルコトヲ以

テ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

一、利息ノ割合

二、流質期限

三、質物臺帳ニ關リタルトキノ處辨方

第十八條 營業者ハ流質期限後何時タリトモ其ノ質

物ヲ處分スルコトヲ得

第十九條 質物臺帳ヲ廢棄セザルコトヲモ其ノ臺帳

ニテ添テ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受ケ但シ

質物ニ對スル處分終了シタル後ニ非テハ願出ル

コトヲ得

第二十條 質物臺帳ヲ毀損シタルトキハ其ノ臺帳

帳書記載シタル現在物品又十日以内ニ新臺帳

ニ記載シ所轄民政支署長ニ提出シ檢閲ヲ受ケヘシ

第二十一條 營業者ハ附録第四號様式ニ依リ其ノ規約

ヲ添テ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受ケ

規約ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第二十二條 質置主ハ其ノ質物ヲ質置主ヨリ五月以内

ニ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受ケ

第二十三條 本令及依リ所轄民政支署長ニ願

命スル事項ニ違背シ又ハ公安ヲ害スル虞アリト認

ムルモノハ所轄民政支署長ニ於テ左ノ處分ヲ爲ス

一、營業ヲ停止スルコト

二、支店ハ閉鎖命令スルコト



三、組合ノ解散ヲ命シ又ハ其ノ規約ヲ變更ヲ命スル
 四、家族、同居人又ハ雇人ノ使用ノ禁止若ハ停止ヲ
 命シ又ハ雇人ノ解雇ヲ命スルコト
 五、管理人ノ認可ヲ取消スルコト
 第二十三條 憲兵ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又
 ハ傳染病毒ニ汚染ノ物品アリト認めルトキハ何時
 タリトモ質物及質物臺帳ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ
 期間ヲ限リ質物及質物臺帳ヲ差押フルコトヲ得
 第二十四條 質物ニシテ遺失物又ハ贖物ニ係ルトキハ
 憲兵ハ之ヲ没収シ被害者ニ還付スルコトヲ得若シ
 被害者知レサルトキハ二ヶ年ノ後被徴収者ニ還付
 スルコトヲ得
 第二十五條 質屋廢業シ若ハ許可ヲ取消サレ又ハ許可
 十少効ヲ失フト雖其ノ以前ニ成立シタル質契約及其
 質物ニ付テハ尙本令ノ規定ヲ適用ス營業ノ停止
 命令ヲ受ケタル者其ノ停止期間亦同シ
 第二十六條 管理人ノ置キタルトキハ本令第六條乃至
 第十二條、第十四條、第十五條、第十七條、第十
 九條及第二十條ノ規定ハ之ヲ管理人ニ適用ス
 第二十七條 左ノ各號ニ該當スル者ハ五拾圓以下ノ罰
 金又ハ三十日以内ノ禁錮ニ處ス

一、第一條ノ許可ヲ受ケズシテ營業ヲ爲シ又第二條
 ノ許可ヲ受ケズシテ支店ヲ設ケタル者
 二、第十六條ノ場合ニ於テ質物ノ受戻ヲ拒ミタル者
 三、第十九條ノ許可ヲ受ケズシテ質物臺帳ヲ廢棄シ
 タル者
 四、第二十二條第一項ノ認可ヲ受ケズシテ營業組合
 ヲ設ケ又ハ其ノ規約ヲ變更シタル者
 五、第二十二條第二號乃至第四號ノ命令ニ従ハサル
 者
 六、第二十三條ノ場合ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ
 故意ニ質物臺帳ヲ毀損、亡失シタル者
 七、第六條乃至第十二條、第十三條、第十四條、第
 十五條及第十七條ニ違背シタル者
 第二十八條 第四條、第五條、第十三條、第二十條及
 第二十一條第二項ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料
 ニ處ス
 第二十九條 營業上ニ關シテハ家族、同居人又ハ雇人
 ノ所爲ト雖營業者又ハ管理人其ノ責任ニ任ス
 第三十條 本令ハ明治三十九年三月二日ヨリ之ヲ施行
 ス
 第三十一條 本令施行前質屋營業ノ許可ヲ受ケ現ニ其

ノ營業ヲ爲ス者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト
 看做ス
 第十條ノ質物臺帳ハ本令施行後十日以内ニ所轄民
 政支署ニ提出シテ檢印ヲ受クヘシ

附條第一號

年號月日起
 質物臺帳
 紙數(表紙ヲ) 何枚
 支署印

裏面ニ營業者ノ原籍、住所、氏名ヲ記シ若シ管理
 人アルトキハ其ノ原籍、住所、氏名ヲ併記スヘシ

備考 大判紙横折ニテ厚表紙ヲ附シ本綴トス
 紙數ハ滿一ヶ年間使用ノ見積ニテ甚シキ過不足ナキヲ要ス

附録第二號

第三欄

第三欄

<p>第一號</p> <p>一、黒羽二重男袴 壹枚</p> <p>但シ何々五ノ紋附裏花色秩父</p> <p>此貸金何圓何拾錢</p>	<p>何府縣郡市町村大字</p> <p>何 某</p>	<p>年月日受戻</p> <p>元利金何圓何拾錢受取</p>
<p>第二號</p> <p>一、博多男帯 壹筋</p> <p>但シ茶下紺ト淺黄トノ小柄縹縹</p> <p>裏紺無地</p> <p>一、銘仙男綿入 壹枚</p> <p>但シ茶下紺ト縹縹裏紺木綿</p> <p>此貸金何圓何拾錢</p>	<p>何府縣郡市町村大字</p> <p>何 某</p>	<p>年月日受戻</p> <p>元利金ノ内何圓受取</p>
<p>第三號</p> <p>一、米(四斗二升八) 六俵</p> <p>但シ陸前米</p> <p>此貸金何圓何拾錢</p>	<p>何府縣郡市町村大字</p> <p>何 某</p>	<p>年月日受戻</p> <p>元利金ノ内何圓受取</p>

<p>此貸金何圓何拾錢</p> <p>第四號</p> <p>一、金剛時計 鎖共 壹個</p> <p>但シ十八金十九形雨蓋</p> <p>此貸金何拾圓</p>	<p>何府縣郡市町村大字</p> <p>何 某</p>	<p>年月日受戻</p> <p>元利金何圓受取</p>
<p>第五號</p> <p>一、双子織女袴 壹枚</p> <p>但シ紺ト茶ト赤ト太柄甚襷裏淺</p> <p>黄唐木綿</p> <p>第六號</p> <p>一、毛織子女丸帯 壹筋</p> <p>但シ何々</p> <p>此貸金何圓</p>	<p>何府縣郡市町村大字</p> <p>何 某</p>	<p>年月日流質</p> <p>年月日何府縣郡市町</p> <p>村大字何某金何圓ニテ賣却</p> <p>年月日流質</p> <p>年月日商品ニ移ス</p>

備考 第一欄ニハ賣物ノ番號、品質、種類、眞數、形狀、模様、産地、産節、特徴及貸金額等第二欄ニハ質置主ノ原籍、住所、氏名、又代理人、證人アルトキハ其ノ原籍、住所、氏名等第三欄ニハ受戻又ハ流質ノ別其ノ年月日及流質ニ付テハ處分ノ結果即チ賣却シタルトキハ其ノ年月日、代價、買主ノ



原籍、住所、氏名又自用ニ供シ若シ古物商ヲ兼業スル者ニシテ之ヲ商品ニ移シ久シキ其生事
 山ヲ詳ニスヘシ
 質物藏置ノ場所、貸金元利ノ計算等營業者ニ於テ必要トスルモノハ適宜記入スルモ妨ナシ
 第三欄ニ受戻又ハ流質ノ記載ナキモノハ質期限内ノモノトス又流質物ニシテ處分ノ記載ナキモ
 ノハ現在品トス

附録第三號

第 號	明治 年 月 日	質置主
一、貸金何圓何拾錢		何府縣郡市町村大字 何 某
一、何々		代理人(設人) 何 某
一、何々		何府縣郡市町村大字 何 某
以上		

一、利子ノ割合	何所(營業ノ場所ヲ記ス)
一、流質期限	何所(支店ノ場所ヲ記ス)
一、質物災難ニ罹ラクルル	質屋營業 何 某印
一、質物出入時間	(管理人) 何 某印

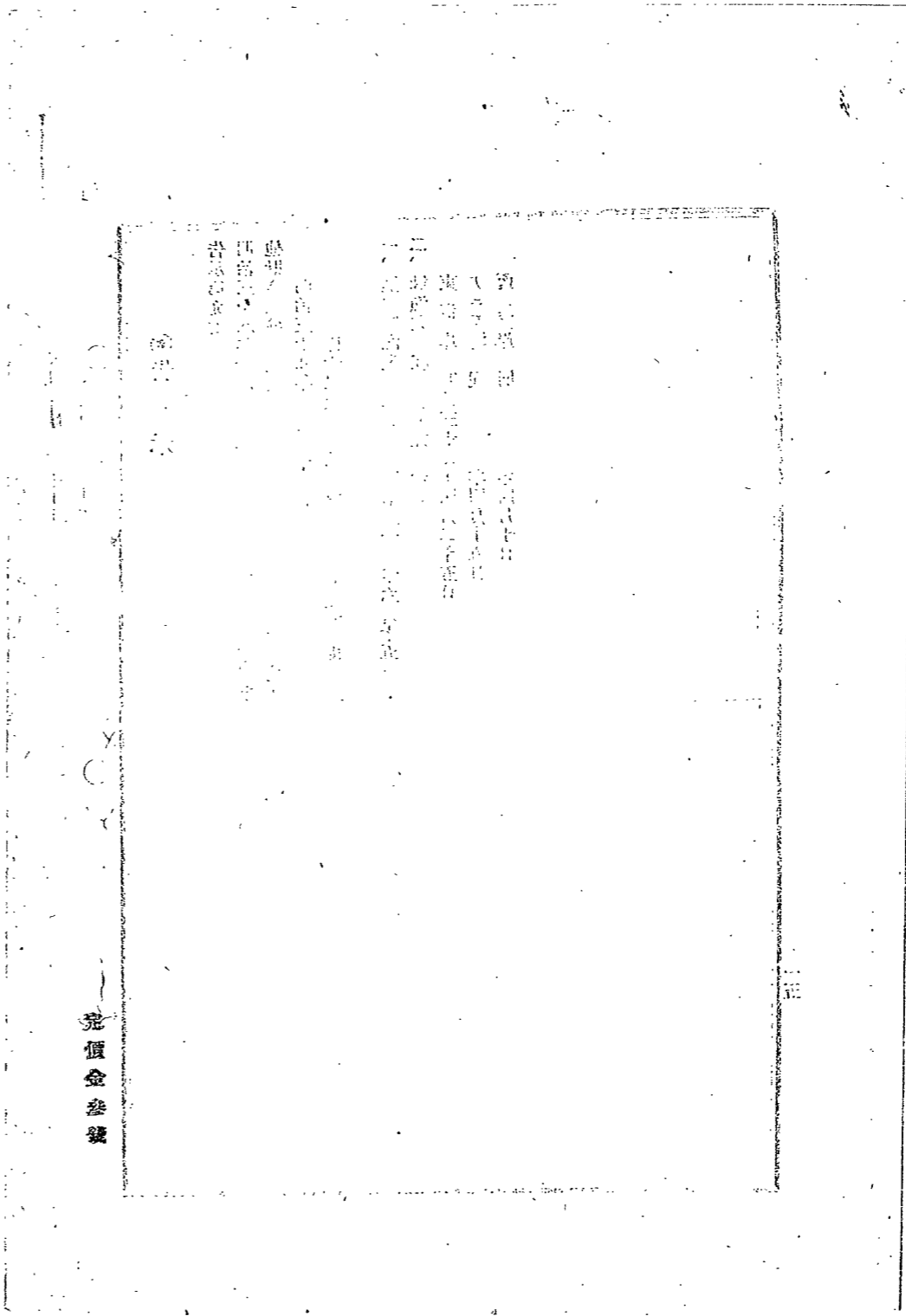
備考 質置主ノ方至六寸横二寸以上ニシテ紙質ハ兩面ヲ用ヒ得ヘキモノトス

告 示

告示第九號
 明治三十八年十月一日軍令第十八號落札漁場ノ建物其
 他財産取締規則第二條ノ漁期開始期日ヲ左ノ通相定ム
 明治三十九年二月二十一日
 樺太民政署民政長官 熊谷 喜一郎

一、鮭、鱈漁業ニ在リテハ明治三十九年六月十五日
 二、練漁業ニ在リテハ左ノ如シ
 東海岸 明治三十九年四月二十五日
 アニツ灣 同 年四月十五日
 西海岸 同 年四月十日





完
價
金
参
録

7-0142

0225

樺太民政署官報 第十九號

明治卅九年二月廿八日 水曜日
樺太民政署

◎軍令

軍令第三十七號
森林伐採規則左ノ通リ定ム

明治三十九年二月二十八日

樺太守備隊司令官 山田 保 永

森林伐採規則

第一條 森林ノ伐採ハ特別ノ規程ニ依ルモノヲ除クノ外左記各條ノ用途ニ限リ民政長官ニ於テ區域又ハ立木ヲ指定シテ一時之ヲ許可スルコトヲ得
一、自家建築用材
二、薪炭材
第二條 前條用材又ハ薪炭材ヲ伐採セントスル者ハ民政長官ニ出願ス可シ
第三條 民政長官ニ於テ定ムル所ノ伐採料金を納付シタル後ニアラサレハ伐採ニ着手スルコトヲ得ス
第四條 伐採ノ許可ヲ受ケタル田材又ハ薪炭材ハ民政長官ノ許可ヲ得スシテ其ノ用途ヲ變更シ又ハ他ニ

轉賣讓與スルコトヲ得ス

第五條 天災其ノ他不可抗力ニ因リ木材ヲ所定ノ期限内ニ搬出シ終ルコトヲ得サルトキハ其ノ事由ヲ具シ搬出期限延期ヲ民政長官ニ願出テ其ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 造材ト運材トヲ間ハス總テ入林者ハ山入鑑札ノ交付ヲ受ケ之ヲ携帶スヘシ

第七條 第三條及第四條ニ違背シ又ハ搬出期限經過後ノ許可ヲ得スシテ木材ヲ搬出シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處シ木材ハ何人ノ所有ニアラハ間ハス之ヲ沒收ス

第八條 山入鑑札ヲ携帶セスシテ伐採運搬ニ從事シタルモノハ五拾圓以内ノ罰金ニ處ス若シ本人納付スルコト能ハサルトキハ其ノ雇主ヨリ徴取ス

附 則

第九條 明治三十八年陸軍省告示第十五號樺太島漁業假押則ニ依リ漁業ノ許可ヲ得タル者及今年樺太民政署告示第四號漁業鑑札規則ニ依リ漁業ノ鑑札ヲ受ケタル者ニシテ所定ノ目的ノ爲メニ森林ヲ伐採

第十條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス但第八條ハ本年四月一日ヨリ施行ス

正誤

官報第十五號掲載軍令第六號第二十三條中「當トアルハ適當全第二十六條第二號中「手當」トアルハ「手當」ト正誤ス
同第十八號掲載軍令第三十四號第七條第十二號中「器ノ取扱」ノ下「爲サシメ」又ハ其ノ取扱ヲ「ノ十一」字ヲ脱ス
全上附録様式備考欄第二行目其他ハ「トアル」ハ其他ノ「懲」全號掲載軍令第三十六號第二十四條中「沒收」ハ「沒收」ノ「懲」全上附録第二號様式第二欄中「何々憲兵ノ認可」トアルヲ承認ト訂正ス

定 價 金 參 錢

樺太民政署官報 第二十號

明治卅九年三月五日 月曜日

樺太民政署

◎署令

署令第九號
鑑札漁業者土地使用並ニ山林伐採ニ關スル件左ノ通相
定ム

明治三十九年三月五日

樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

第一條 漁業鑑札ヲ受ケタル者漁業鑑札規則第四條ニ依リ住宅其ノ他營業ニ要スル建築及工作用敷地、漁船漁具置場、海産干場ニ必要ナル海濱土地ヲ使用セントスルトキハ第一號書式ニ依リ豫メ所轄支署長ニ届出ツ可シ

第二條 漁業鑑札ヲ受ケタル者漁業鑑札規則第五條ニ依リ薪炭用、住宅其ノ他漁業ニ要スル建築及工作用、並ニ漁船漁具用ノ爲メ山林ヲ伐採セントスルトキハ第二號書式ニ依リ豫メ所轄支署長ニ届出ツ可シ

第三條 漁業鑑札ヲ受ケタル者ハ土地ノ使用又ハ山林

ノ伐採ニ着手スル以前ニ於テ左ノ料金を納付ス可シ

一、土地使用料金 一坪ニ付一漁期間 金壹錢

一、山林伐採料金 一尺ニ付 金拾五錢

一、柵ニ付 金貳拾錢

第四條 漁業鑑札ヲ受ケタル者ノ伐採シタル木材ハ所轄支署長ノ許可ヲ得シテ他ニ轉賣譲與スルコトヲ得ス

第五條 所轄支署長ハ漁業鑑札規則第四條第二項及第三項第一項ニ基キ必要ト認ムル處分ヲ爲スコトヲ得

第六條 左ノ各項ニ該當スル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處シ木材ハ何人ノ所有ニアラフ間ハ之ヲ沒收ス

一、第一條又ハ第一條ノ届出ヲ爲サス若ハ届出以外ニ土地ヲ使用シ又ハ山林ヲ伐採シタル者

二、第四條ノ規定ニ違反シタル者

三、第五條ニ依ル處分ニ従ハサル者

第七條 漁業鑑札ヲ受ケタル者ニシテ本令發布以前ニ

附則

山林ヲ伐採シタル者ハ其ノ伐採ノ場所樹木ノ種類
及數量ヲ明記シ本年三月三十一日迄ニ所轄支署長
ニ届出テ第三條ノ料金ヲ納付スヘシ
第八條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第一號書式

鑿札漁業用土地使用御届

一、場所 名稱(別紙圖面ノ通り)

面積 何坪(別紙圖面ノ通り)

内 譯

住宅 何坪

納屋 何坪

海産干場 何坪

何々 何坪

右土地明治何年何月何日ヨリ使用致シ明治三十九年署
令第九號ヲ遵守シ此段及御届候也
明治何年何月何日

何海岸(又ハ何灣内)漁場名稱、鑿札番號

何業者 氏 名印

樺太民政署

何支署長官氏名宛

第二號書式

鑿札漁業用山林伐採御届

一、伐採場所 何海岸(又ハ何灣内)何々(別紙圖面ノ通)

二、伐採樹種及數量

(イ) 用材

何々 何尺

(ロ) 薪炭材

何々 何棚

三、伐採及撤出期間 自明治何年何月何日 何日間

右山林伐採致度明治三十九年署令第九號ヲ遵守シ此段

及御届候也

明治何年何月何日

何海岸(又ハ何灣内)漁場名稱、鑿札番號
何業者 氏 名印

樺太民政署

何支署長官氏名宛

署令第十號
所有牛馬届出ニ關スル件左ノ通相定ム

明治三十九年三月五日

樺太民政署民政長官 能谷喜一郎

第一條 牛馬ヲ所有スル者ハ第一號書式ニ依リ明治三
十九年三月三十一日迄ニ所轄支署又ハ支署出張所
ヲ經由シ民政長官ニ届出ツヘシ
前項ノ届出後牛馬ヲ所有シタル者ハ十日以内ニ届
出ツヘシ
第二條 前條ノ届出後所有牛馬ニ異動ヲ生シタルトキ
ハ十日以内ニ第二號書式ニ依リ届出ツヘシ
第三條 第一條及第二條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ貳拾圓
以下ノ罰金ニ處シ情狀ニ依リ其ノ牛馬ハ之ヲ沒收
ス
第四條 本令ハ發行ノ日ヨリ施行ス

第一號書式

所有牛馬御届

種類	牝牡	年齢	寸尺	毛色	特徴	用途	事由
							何年何月何日何誰 ヨリ受テ誰受ク
							何年何月何日何誰 ヨリ下ヲ受ク
							何年何月何日何誰 ヨリ何日分姫
							何々

計 牛 何何頭
馬 何何頭
右御届ニ及候也
年 月 日 現住所 誰印

民政長官宛

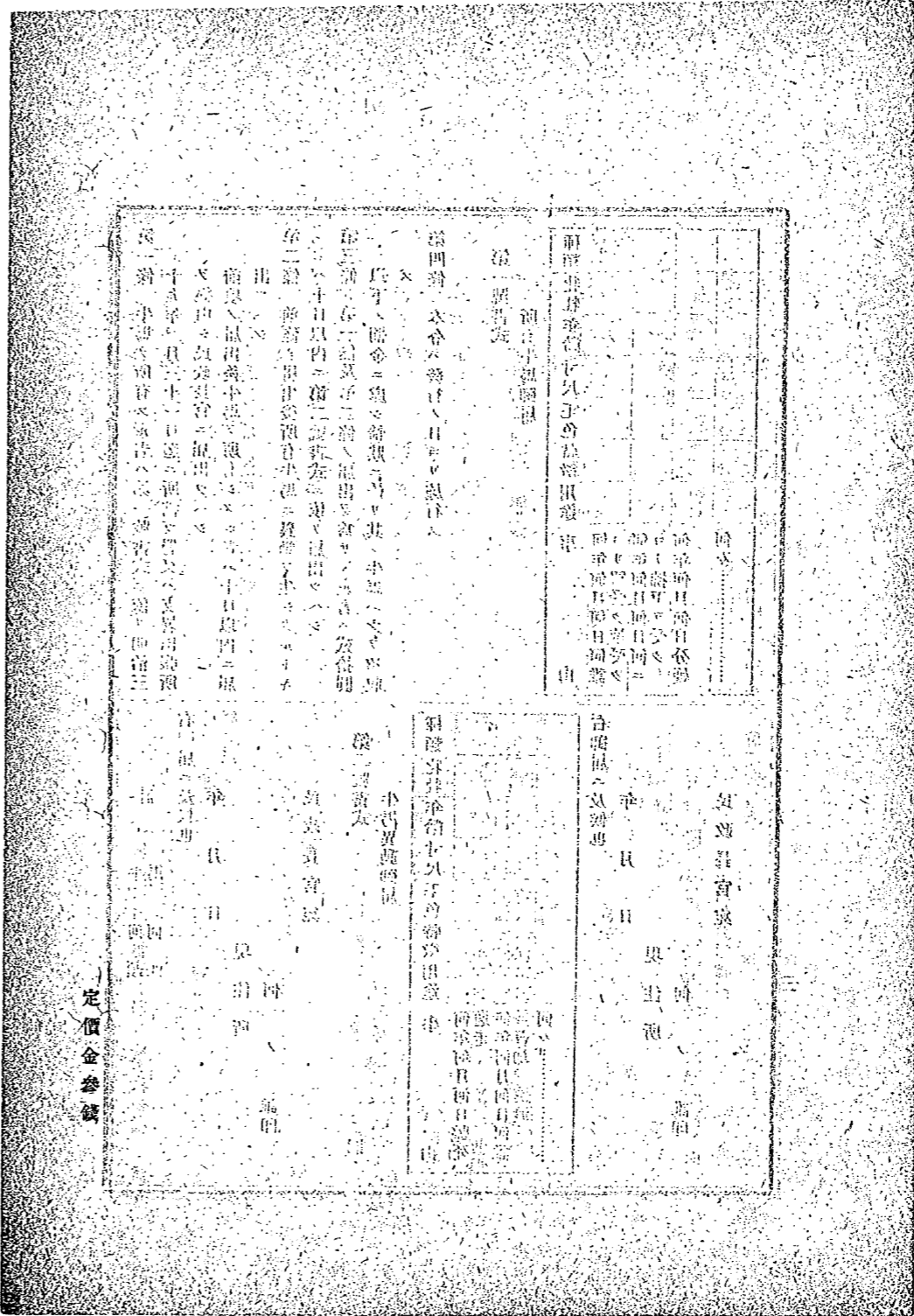
第二號書式

牛馬異動御届

種類	牝牡	年齢	寸尺	毛色	特徴	用途	事由
							何年何月何日何誰 逃走
							何年何月何日何誰 ニ賣却、讓渡
							何々

右御届ニ及候也
年 月 日 現住所 誰印

民政長官宛



7-0142

0230

樺太民政署官報第廿一號

明治卅九年三月十五日 木曜日
樺太民政署

軍令第三十八號、工部省、兵部、逓信省、司法省、農林省、海軍省、陸軍省、各官署、事務、規則、及、手続、規則、等、其、他、官署、事務、規則、及、手続、規則、等、ハ、別、表、ニ、列、シ、テ、登、載、ス、ル、事、ニ、依、リ、軍令第三十八號、工部省、兵部、逓信省、司法省、農林省、海軍省、陸軍省、各官署、事務、規則、及、手続、規則、等、其、他、官署、事務、規則、及、手続、規則、等、ハ、別、表、ニ、列、シ、テ、登、載、ス、ル、事、ニ、依、リ、

管ヲ露出セス上部ニ湯氣ヲ設クル事
但シ蒸湯ニ付テハ本號ノ規定ヲ通用セス
二、洗場ニ板又ハ石、煤、瓦、陶器ノ敷、適當ノ勾
配ヲ附シ且、板敷ノ下又ハ石、煤、瓦、陶器ノ間際
ハ總テ厚漆塗叩ト爲ス下、

湯屋營業取締規則
明治卅九年三月十五日、樺太守備隊司令官
山田 保 永
第一條、湯屋營業取締規則

三、蒸湯管在テ前號ノ外洗場ニ適當ノ溫度ヲ保タ、
四、湯氣ニ相當之裝備ヲ施ス下、
五、湯氣ニ透見シ得ル様完全ニ境界ヲ設ケ且、適當ニ
防光線ヲ通セシムル事、

第一條、湯屋營業ヲ爲シ下、其、者、ハ、左、ノ、事、項、ヲ、具、シ、照
第五條、構造設計書及圖面ヲ添へ所轄民政署長
三、願出許可ヲ受クシ、其、後、

六、洗場下、脱衣場トテ境界ニ、硝子障子ヲ設クルコ
ト、

二、浴場又係置、管、線、ノ、間、隙、ハ、其、他、湯、室、用、品、
三、湯室種類(洗湯、蒸湯、湯藥等ノ別)
四、水質(淡水、鹹水ノ別)

噴出器、爲、以、燃、筒、等、可燃、物、ニ、接、セ、以、上、八、尺、以、上、
突、出、器、ヲ、爲、ス、再、下、ノ、

効能ヲ詳記スル要ス、
第二條、浴場ノ構造ハ左ノ各號ニ據ル

所轄民政署長ニ於テ前項各號中ノ規定ニ比シ同
等若ク同等以上ト認メ、トキハ他ノ方法又ハ材料
ヲ用キテ構造スルヲ許可スルコトアルベシ

第二條、浴場ノ構造ハ左ノ各號ニ據ル
三、湯室種類(洗湯、蒸湯、湯藥等ノ別)
四、水質(淡水、鹹水ノ別)
五、湯室種類(洗湯、蒸湯、湯藥等ノ別)



第三條 浴場ニハ左ノ設備ヲ爲スヘシ
 一、洗場ニハ適當ナル清湯溜及淨水溜ヲ設ケ且ツ清湯及淨水ヲ使用スルニ相應ナル小桶、手水盥及柄杓ノ類ヲ備フルコト
 二、蒸湯ノ清湯溜ハ前條第一項第一號ノ規定ニ準シ構造シコックヲ附ト爲スコト
 三、脱衣場ニハ浴客ノ數ニ相應スル衣類及携帶品ノ容器ヲ備フルコト
 四、浴場入口ノ内庭ニ男女各別ノ履棚ヲ設ケ降雨ノ際トキハ傘蓋ヲ備フルコト
 五、湯槽、洗場、脱衣場ヲ外部ヨリ透見シ得ヘキ場所ニハ適當ノ目隠ヲ設ケルコト
 六、夜間ハ浴場ノ全部ヲ十分ニ照スヘキ燈火ヲ點スルコト
 七、蒸湯ニ在ラハ前各號ノ外浴室ニ相應ナル適當ノ階段ヲ設ケルコト
 第四條 浴場ノ工事落成シ及前條ノ設備完成シタルトキハ所轄民政支署長ニ届出検査ヲ受クヘシ
 検査ニ合格シタル後ニ非サレハ開業スルコトヲ得ス
 第五條 左ノ場合ニハ第一條ノ規定ニ準シ所轄民政支署長ニ届出許可ヲ受クヘシ
 一、浴場ノ位置又ハ構造ヲ變更セントスルトキ
 二、洗場又ハ蒸湯ヲ藥湯ニ變更セントスルトキ
 三、藥湯ニ用ユル藥品ノ種類ヲ變更セントスルトキ
 浴場ノ位置ヲ變更シ若ハ構造變更ノ工事落成シタル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス
 第六條 營業許可ノ後三ヶ月以内ニ開業セス若ハ引續キ六ヶ月以上休業シタルトキハ許可ノ効ヲ失フ但シ所轄民政支署長ノ認可ヲ得テ休業シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第七條 營業者ハ自ら其ノ營業ヲ管理スル場合ノ外管理人ヲ定メ連署ヲ以テ所轄民政支署長ニ届出ヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
 第八條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出ヘシ但シ死亡ノ場合ニ於テハ其ノ家族、同居人又ハ其ノ營業ニ關係アル者ヨリ届出ルコトヲ要ス
 一、營業者又ハ管理人ノ原籍、住所、身分、年齢ニ異動ヲ生シタルトキ
 二、湯ノ種類又ハ水質ヲ變更シタルトキ但シ第五條第一項第二號ノ場合ヲ除ク
 三、廢業又ハ死亡シタルトキ
 第九條 營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一、日出前午後十二時後營業ヲ爲スヘカラサルコト又烈風ノ節ハ時間ニ拘ハラズ焚火ヲ停ムヘキコト
 二、煙突ハ毎週一回以上掃除スヘキコト
 三、浴場ニハ適當ノ番人ヲ置キ浴客ノ出入及衣類携帶品等ノ看守ヲ爲サシムヘキコト
 四、浴場ハ毎日更換シ湯槽、洗場、脱衣場等ハ常に清潔ニ掃除スヘキコト但シ藥湯ニシテ毎日更換シ難キ事情アルモノハ期日ヲ定メ所轄民政支署長ノ認可ヲ受ケ繼續スルコトヲ得
 五、浴客ノ遺留品又ハ取換品アルトキハ浴場内浴客ノ見易キ箇所ニ揭示シ五日以内ニ物ヲ通知レサルトキハ現品ヲ添ヘ憲兵ニ届出ヘキコト
 六、浴客中盜難ニ罹リタル者アルトキハ即時憲兵ニ届出ヘキコト
 第十條 浴場内浴客ノ見易キ箇所ニ左ノ事項ヲ揭示スヘシ
 一、入浴料ノ定額
 二、第十一條、第十二條各號ノ事項
 三、藥湯ハ其ノ効能及浴法
 第十一條 浴客ニ對シ左ノ事項ヲ履行スヘシ
 一、十二歳以上ノ男女ヲシテ混浴セシメサルハ勿論洗場、脱衣場、履棚等總テ混同ヤシメサルコト
 二、入浴中放歌、喧嘩又ハ猥褻ノ雜語、不潔ノ行爲ヲ爲サシメサルコト
 三、湯槽内ニ於テ石鹼、洗粉其ノ他湯ヲ汚濁スヘキ洗料ヲ使用セシメサルコト
 第十二條 左ニ記載シタル者ハ入浴ヲ拒絕スヘシ
 一、保護者ノ附添ハサル五歳未満ノ幼者、老疾者、白痴者及癩癩者ト認ムル者
 二、癩病、疥癬病及微毒患者等ニシテ著シク外部ニ顯ハレ其ノ他皮膚ノ甚シク腐爛シタル者但シ藥湯ニシテ其ノ種類ノ病者ニノミ入浴セシムルモノハ此ノ限ニ在ラス
 三、身體ニ特殊ノ不潔物附着シタル者
 四、狂醉者
 第十三條 管理人ヲ置キタルトキハ第九條乃至第十二條ノ規定ハ之ヲ管理人ニ適用ス
 第十四條 營業者又ハ管理人本令ニ違背シ又ハ公安、衛生若ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ所轄民政支署長ニ於テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 一、營業ノ停止ヲ命ジ又ハ許可ヲ取消スコト
 二、浴場ノ構造又ハ設備ノ變更ヲ命スルコト
 三、入浴料又ハ管理人ノ變更ヲ命スルコト
 第十五條 左ノ各號ニ該當スル者ハ五拾圓以下ノ罰金

又三十日以内ノ禁錮ニ處ス

一、第一條ノ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シ又ハ第四條及第五條第二項ノ検査ヲ受ケス若ハ検査ニ合格セシメシテ開業シタル者

二、第五條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ其ノ各號ノ事項ヲ爲シタル者

三、第十四條各號ノ命令ニ従ハサル者

第十六條第九條第四號ノ認可ヲ受ケタル期日以後營業ヲ更換セサル者及第七條乃至第十二條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十七條營業上ニ關シテハ家族、同居人又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者又ハ管理人其ノ責ニ任ス

附 則

第十八條 本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 本令施行前舊營業ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ營業ヲ爲ス者ニシテ浴場ノ構造第二條ノ規定ニ適合セス又ハ第三條ノ設備ヲ缺クモノハ該規定ニ依リ本年五月三十一日迄ニ改修又ハ設備ヲ爲シ所轄民政支署長ニ届出検査ヲ受ケヘシ

前項ノ検査ヲ受ケス又ハ検査ニ合格セサル者ハ期限後許可ノ効ヲ失フ

軍令第三十九號
馬車營業取締規則左ノ通相定ム
明治三十九年三月十五日
樺太守備隊司令官 山田 保 永

馬車營業取締規則

第一條 馬車營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受ケヘシ

一、原籍、住所、身分、年齢及從來ノ職業

二、營業ノ種類 乗合馬車 貨物馬車

三、營業ノ場所

四、往復スヘキ線路

五、營業用ニ供スル車輛數 乗合馬車ノ車輛ニハ乘客定員ヲ附記スルコト

第二條 營業ノ種類又ハ往復スヘキ線路ヲ變更セシトスルトキハ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受ケヘシ

第三條 營業許可ノ後三ヶ月以内ニ開業セス又ハ引續キ六ヶ月以上休業シタルトキハ許可ノ効ヲ失フ但シ所轄民政支署長ノ認可ヲ受ケ休業シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 營業者ハ自ラ其營業ヲ管理スル場合ノ外管理人ヲ定メ連署ヲ以テ所轄民政支署長ニ届出ヘシ其

ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五條 營業用ニ供スル車輛ハ所轄民政支署ノ検査ヲ受ケ合格シタルモノニ限ル

第六條 検査ニ合格シタル車輛ニハ検査證ヲ付與ス

第七條 車輛検査證ハ車輛ノ見易キ箇所ニ釘附スヘシ但シ馬丁ハ車掌之ヲ兼テ又兼合定員十八未満ノ馬車ニ限リ取者ヲシテ車掌及馬丁ヲ兼テシムルコトヲ得

貨物馬車ニハ取者ヲ設ケヘシ

第八條 車掌、取者、馬丁ヲ雇入レ又ハ家族、同居人ヲシテ車掌、取者、馬丁ヲシメントスルトキハ其ノ原籍、住所、身分、年齢ヲ記シ所轄民政支署長ニ願出照札ヲ受ケ之ヲ携帶セシムヘシ營業者自ラ車掌、取者、馬丁ヲラントスルトキ亦之ニ準ズ

貨物馬車ノ取者ニ對シテハ前項ノ規定ヲ適用セス

第九條 車掌、取者ハ年齢滿拾八歳以上馬丁ハ同拾六歳以上ノ強壯ナル男子ニシテ取者ハ取術ニ熟練シタルモノニ限ル

第十條 車輛ニハ適當ノ燈器及號角又ハ號鈴ヲ備フヘシ

第十一條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出ヘシ但シ第三號、第四號及第六號ノ場合ハ車輛検査證又ハ照札ヲ返納シ第五號及第七號ノ場合ハ車輛検査證又ハ照札ヲ再下付若ハ書換ヲ受ケタルコトヲ要ス

一、營業者及管理人ノ原籍、住所、身分、年齢ニ異動ヲ生シタルトキ

二、營業ノ場所ヲ移轉シタルトキ

三、廢業シタルトキ

四、車掌、取者、馬丁死亡シ又ハ之レヲ解雇シ若ハ其ノ業務ヲ罷メシメタルトキ及車掌、取者、馬丁ヲ兼ヌル營業者ニシテ其ノ業務ヲ罷メタルトキ

五、車掌、取者、馬丁ノ照札ヲ毀損、亡失シ若ハ其ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキ

六、車輛ヲ毀損、亡失、賣渡、讓渡シ又ハ其ノ使用ヲ廢止シタルトキ但シ賣渡、讓渡ノ場合ニハ買受人、讓受人ノ連署ヲ要ス

七、車輛検査證ヲ毀損、亡失シ若ハ其ノ記載事項ニ異動ヲ生シ又ハ其ノ文字不明ニナリタルトキ

營業者死亡シタルトキハ其ノ家族、同居人又ハ其ノ營業ニ關係アルモノヨリ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出車輛検査證ヲ返納スヘシ但シ相續人又

ハ他ノ家族ニ於テ引續營業ヲ爲サントスルトキハ
所轄民政支署長ニ届出車輛検査證ノ書換ヲ受クヘ
シ

第十二條 車掌ハ就業中ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
一、定員外ニ客ヲ乗載スヘカラサルコト但シ十二歳
未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ニ算シ五歳未滿ノ者ハ
定員外トス
二、傳染性疾患者、人ノ厭忌スヘキ疾患者及乱醉者
等ヲ乗載スヘカラサルコト
三、惡臭ヲ發シ又ハ危險、不潔ノ物品ヲ乗載スヘカ
ラサルコト
四、定額ノ賃銀ノ外何等ノ名義ヲ以テズルニ拘ハラ
ズ金銀ヲ領取スヘカラサルコト
五、行人ニ對シテ強テ乘車ヲ勒メ又ハ侮慢ノ言行ヲ
爲スヘカラサルコト
六、就業中酩酊スヘカラサルコト
七、馬車ノ行進中乗客ヲ乗降スヘカラサルコト
八、正當ノ事由ナクシテ乘車及發進ヲ拒ムヘカラサ
ルコト
九、夜間ハ馬車ノ前面及車室内ニ點燈スヘキコト
第十三條 取替ハ就業中左ノ事項ヲ遵守スヘシ
一、止ムヲ得サル場合ノ外取替者ヲ離ルヘカラサル
コト但シ貨物馬車ノ取替ハ此ノ限ニ在ラス
二、馬匹ヲ殘虐ニ使用スヘカラサルコト
三、許可線路以外ニ行車スヘカラサルコト
四、交通ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ停車シ又ハ貨
物ノ積卸ヲ爲シ若ハ馬ニ秣飲セシムヘカラサルコ
ト
五、馬車ヲ併行シ又ハ他ノ馬車ト競争スヘカラサル
コト
六、就業中酩酊スヘカラサルコト
七、交通頻繁又ハ道路狹隘ノ場所、街角、橋梁及坂路
ヲ通過スルトキハ馬丁ヲ前行セシメ號角又ハ號鈴
ヲ鳴ラシ徐行スヘキコト
八、人又ハ馬車ニ行進フトキハ號角又ハ號鈴ヲ鳴ラ
シ左ニ避クヘキコト
九、人又ハ馬車ヲ追過セントスルトキハ號角又ハ號
鈴ヲ鳴ラシ避讓ヲ求ムヘキコト
十、實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ
空車ニ於テ之ヲ避クヘキコト
十一、街角ハ通過スルトキハ右折ハ大廻ヲ爲シ左折
ハ小廻ヲ爲スヘキコト
貨物馬車ノ取替ハ前項各號ニ掲グルモノ、外左ノ
事項ヲ遵守スヘシ

一、前條第四號、第八號及第九號ノ事項但シ車室内
各點燈ノ之ヲ要スルモノハ別ニ規定スルコト
二、荷臺ハ高さ六尺、左右ハ一尺、前後各三尺ヲ超過
スル貨物ヲ乗載スヘカラサルコト但シ竹木其ノ他
分割容易ナルモノハ此ノ限外ニ在ラス
三、長大ナル貨物ヲ運搬スル爲メ必ズトスルモノ、
外馬車ニ乗載スヘカラサルコト
四、火ヲ乗載スヘカラサルコト
五、尖端ヲ露出シテ尖リタル竹木其ノ他貨物
ヲ乗載シ又ハ墜落、漏出飛散ヲ防クニ足ルヘキ裝
置ヲ爲シ又ハ其ノ貨物ヲ乗載スヘカラサルコト
第十四條 所轄民政支署長ニ於テ必要ト認ムル時ニ於
テ隨時場所ヲ指定シテ車輛ノ検査ヲ受ケシムルコト
ヲ得ルコト
一、何等ノ事由ヨリ車輛ノ検査ヲ受ケシムルコト
ハ車輛ノ其期以後更ニ検査ヲ受ケル迄營業ニ使
用スルコトヲ得ス
第十五條 馬車賃銀ハ民政支署長ノ規定ニ依リテ
前項ニ依リテ決定シテ檢査員ハ車輛ノ見易キ箇所
ニ掲示スルコトヲ得

第十六條 營業組合ニ設ケテシテズルモノハ其ノ規約ニ
添ヘ所轄民政支署長ニ届出認可ヲ受クヘシ其ノ規
約ヲ變更セントスルトキ亦同シ
組合ヲ解散シタルトキハ其ノ主幹者ヨリ五日以内
ニ所轄民政支署長ニ届出シテ之ヲ解散スルコトヲ
得ルコト
第十七條 內管理人ヲ置キタルトキハ本令第五條乃至第
八條、第十二條一項第四號乃至第七號、第十四
條及第十五條第二項ノ規定ハ之ヲ管理人ニ適用ス
ルコト
第十八條 本令又ハ本令ニ依リ所轄民政支署長ノ命令
ニ依リテ事項ヲ違背シ又ハ公安ヲ害シ危害ヲ生スル
虞アリト認ムルトキハ所轄民政支署長ニ於テ左ノ
處分ヲ爲スルコトヲ得
一、營業ヲ停止シ命シ又ハ許可ヲ取消スルコト
二、組合ヲ解散又ハ其ノ規約ノ變更ヲ命スルコト
三、車掌、取替、馬丁ノ就業ヲ禁止シ又ハ其ノ解雇ヲ
命スルコト
四、車輛ノ改造又ハ車輛、馬匹ノ使用ヲ禁止シ又
ハ其ノ若シ其數ヲ制限スルコト
五、行車線路ヲ制限スルコト
六、管理人ヲ變更ヲ命スルコト
第十九條 危害豫防上必要ト認ムルトキハ憲兵ニ於テ
左ノ處分ヲ爲スルコトヲ得

一、定員ノ如何ニ拘ハラズ乗客人員ヲ制限スルコト
 二、乗載貨物ノ容量ヲ制限スルコト
 三、車輛ヲ修繕又ハ車輛ニ必要ノ設備ヲ命スルコト
 第二十二條 左ノ各號ニ該當スル者ハ五拾圓以下ノ罰金
 又ハ三十日以内ノ禁錮ニ處ス
 一、第一條ノ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シ又ハ第二
 條ノ許可ヲ受ケスシテ營業ノ種類又ハ往復スヘキ
 線路ヲ變更シタル者
 二、第八條ノ鑑札ヲ受ケスシテ車掌、取者、馬丁ヲ爲
 サシタ又ハ營業者自ラ其ノ業ヲ爲シタル者
 三、第十三條第二項第一號ニ違背シテ點燈ヲ爲サス
 又ハ定額外ノ賃錢ヲ領取シタル者
 四、第十六條ノ許可ヲ受ケスシテ營業組合ヲ設ケ又
 同ノ其ノ規約ヲ變更シタル者
 五、第十八條及第十九條各號ノ命令又ハ制限ニ從ハ
 ズシタル者
 六、第七條、第九條、第十二條第一號、第四號及第九
 號ニ違背シタル者但シ第九條ノ違背ニ付テハ營業
 者又ハ管理夫ヲ處罰ス
 第三十三條 第十一條第二項ノ死亡届出ヲ爲サ、死者
 及車輛検査證ヲ書替ヲ受ケスシテ引續營業ヲ爲シ
 一名形者、第十四條第二項ノ指定ニ從ヒ車輛ヲ検査
 受ケサル者、第四條、第五條、第六條、第十條、
 第十一條第一項、第十二條、第十三條、第十四條
 第二項、第十五條第二項及第十六條第二項ニ違背
 シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス但シ前條第三號及
 第六號ノ場合ヲ除ク
 第二十二條 本令第七條、第九條及第十條ノ規定ハ自
 用馬車ノ使用者、第十三條各項（第一項第三號ヲ
 除ク）ノ規定ハ自用馬車ノ取者ニモ亦之ヲ適用ス
 但シ第九條第一項ノ馬丁ヲ置カサルトキハ取者ヲ
 シテ之ヲ兼テシテ車掌ハ之ヲ置クヲ要セス
 第二十三條 馬橋ハ馬車ト看做ス
 附 則
 第二十四條 本令ハ明治卅九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第二十五條 本令ハ施行前馬車營業ノ許可ヲ受ケ現ニ
 其ノ營業ヲ爲ス者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタリ者
 ト看做ス但シ第八條ノ鑑札ハ本令施行ノ日ヨリ中
 日以内ニ之ヲ受クルコトヲ要ス、
 馬車ノ往復スヘキ線路ヲ指定セスシテ許可ヲ受ケ
 タル者ハ其ノ線路ヲ「ボロアン」トシ「ウラ」トシ
 「ロンガ」間ト看做ス
 正 誤
 管報第二十號掲載署令第十號第四條五字目行ハ「補」誤

定價金參錢

明治三十九年二月二十日 火曜日
樺太 民政署 官報第九號

諭告

官ノ深ク遺憾トスル所ナリ然リ而シテ
其ノ因テ来ル所ヲ討究スルニモ此等
ノ煖爐使用方不注意ニ起因セル
ハナレ且ツ其不注意ニモ二種アリ
一ハ煖爐中破損ノ個處アルニ氣付
カズシテ濫シテ焚火スルニ因ルモ
他ハ煖
爐ノ使用方ヲ知ラズシテ長時間燻
ニ焚火ヲ繼續スルニ因ルモノ如シ
自今一層此等ノ莫ク注意シ若シ
煖爐ノ要部ニ破損ノ個處アルニ
見レタルトキハ之ヲ修理シ加フルニ
六六決シテ焚火スルハカラス又完全
煖爐トシテ長時間燻火ヲ繼續
スルコトナク適宜ノ時間ニ於テ之ヲ

官ノ深ク遺憾トスル所ナリ然リ而シテ
其ノ因テ来ル所ヲ討究スルニモ此等
ノ煖爐使用方不注意ニ起因セル
ハナレ且ツ其不注意ニモ二種アリ
一ハ煖爐中破損ノ個處アルニ氣付
カズシテ濫シテ焚火スルニ因ルモ
他ハ煖
爐ノ使用方ヲ知ラズシテ長時間燻
ニ焚火ヲ繼續スルニ因ルモノ如シ
自今一層此等ノ莫ク注意シ若シ
煖爐ノ要部ニ破損ノ個處アルニ
見レタルトキハ之ヲ修理シ加フルニ
六六決シテ焚火スルハカラス又完全
煖爐トシテ長時間燻火ヲ繼續
スルコトナク適宜ノ時間ニ於テ之ヲ

此ノ同時ニ火氣ノ上騰ヲ防キテ室
内ニ導キ以テ煖ヲ取ルヲ要ス今在
來ノ家屋ノ使用者漸ク多キヲ加
ヘ場所ニ依リテハ既ニ空屋ナキニ苦
シク況ンヤ復々移住民渡航ノ季節
ニ近ク自曉ノ間ニ迫リ家屋ノ需用
倍々切實ナリトスルニ方リ一朝火
ヲ失レテ之ヲ鳥有ニ帰セシメ其
ノ害ノ大ニ所當ニ個人ノ生命財產
ノ損傷ニ止マラス終ニ本島橋
道上ノ向テ幾多ノ支障ヲ与ヘ至
ルニ至レバカラス堂亦恐ク懼レ
ルハハクシヤ若シ火災ノ有無少
シニ注意シ厚薄如何ニ在リテ存ス
各人先ニ須ク細心留意シテ
萬一ノ失誤ナキヲ期シ以テ畏

日發セルタル告諭ノ趣旨ニ副公ニ是
レ切ニ本官ノ希望スル所ニシテ抑モ亦
本諭告ヲ發スルニ至リタル所以ナリ
明治三十九年二月二十日
樺太民政署官報第九號
事務官 柳原勉 乃
署
文
ウレシキコトヲ支署令第二號
居住移轉及遷去ニ関スル届出規則
九通相定ム
明治三十九年二月二十日
樺太民政署官報第九號
事務官 柳原勉 乃

居住移轉及遷去届出規則

第一條 當支署管内に居住セ

ル者ハ其ノ移轉シタルノ事項ニ關シテ
書面ヲ以テ支署長ニ届出
スルベシ

一本籍身分氏名及生年月日

二渡航前ノ住所及職業

三渡航前ノ日及渡航届出手續

四渡航後ノ經過及現住所並職業

五居住セタル村名番地及他人ノ家

屋ノトキハ其ノ所有主又ハ借家

主ノ意旨書並ニ居住自約

第二條 當支署管内ニ於テ其ノ居

住所ヲ移轉セントスル者ハ豫メ
支署長ニ届出シタル書面ヲ以テ

一本籍住所身分職名氏名及生年月日

二移轉セントスル村名番地及他人ノ家

屋ノトキハ其ノ所有主又ハ借家主ノ
諾書並ニ移轉ノ事由

第三條 當支署管外ニ遷去セントスル

者ハ豫メ支署長ニ届出シタル書面ヲ

以テ支署長ニ届出スルベシ

一本籍住所身分職業氏名及生年月日

二退去先及退去ノ事由

第四條 家族又ハ使用人ノ居住移

轉及退去届ハ其ノ戸主又ハ使用主

リ之ヲ為スルコトヲ要ス

第五條 出張所都内ニ属スル所

各條ノ届書ハ當該出張所長
ヲ經由スルベシ

第六條 本則第一條第二條第

三條及第四條ニ違背シタル者ハ

二拾圓以下ノ罰金又ハ十日以下ノ

拘留ニ處ス

第七條 本令發布以前ニ於テ既

ニ當支署管内ニ居住シタル者

本令施行ノ日より十五日以内ニ於テ

本則第一條ノ届出ヲ為スルベシ

第八條 本令施行ノ日より五日以内

ニ於テ山林ノ伐採及土地使

用ニ關スル届出規則ハ通相定

令施行ノ日より施行ス

明治三十九年三月二十日

樺太民政署長 官 柳原 氏 乃

事務官 柳原 氏 乃

特許漁業用山林伐採

及土地使用届出規則

第一條 漁業ノ特許ヲ受タル者

其ノ特許証裏書第一條第一号

ニ依リ薪炭団住宅其他漁業

ニ要スル建築及工作用並ニ漁具

漁具用ノ為メ山林ヲ伐採セントスル

キハ豫メ其ノ樹木ノ種類數量及

期間ヲ記シタル書面ニ伐採場

所ノ畧圖ヲ添ヘ當支署又ハ出張

所ニ届出シテ指示ヲ受タル

第三條 漁業ノ特許ヲ受タル

者其ノ特許証裏書第一條第一号

号ニ依リ在島其他地與其業ノ專ス
 ル建築及工作用敷地與其業ノ專ス
 具置場湖干地海岸ニ其業ノ專ス
 蔬菜園ニ必要ナル海濱ノ土地
 ヲ使用セシムルトキハ豫メ其ノ自
 的坪数及期間ヲ記シタル書
 面ニ使用場所ノ畧圖ヲ添ヘ
 當支署又ハ出張所ニ届出申請
 示シ受クベシ

第三條 本則第一條及第二條
 ニ違背シタル者ハ三十日以下ノ
 罰金又ハ十日以下ノ拘留ニ處シ
 尚ホ前者ニ對シテハ其ノ伐採樹
 木ヲ没收シ後者ニ對シテハ其ノ
 使用地ヲ原形ニ復セシム

古部全參覽
 3

樺太 民政署 支署官報第九號

明治三十九年二月二十日 火曜日 樺太 民政署 支署官報第九號

諭告

支署諭告第九號
火災ノ警防ニ関シテハ昨午十一月八日附テ以テ身備隊司令官ヨリ告諭セラレタル次第モ有之尚ホ本官ヨリモ時々警戒ヲ加メ置キテハ各人ニ於テ十分ナル注意ヲ拂ヒツクアルベキハ信シテ疑ハズ所ナレバ爾來不幸シテ火災ノ發生ヲ見ルコト少カラス今該署内ニ於ケル其ノ件數ヲ調査スルニ昨午十月二十五日ヨリ本年二月十日ニ至ル間ニ於テ祝融ノ禍ニ罹ルモノ實ニ八件ノ多キニ上リタル事

官ノ深ク遺憾トスル所ナリ然リ而シテ其ノ因テ来ル所ヲ討究スルニ孰モ皆ハ煖爐使用方ノ不注意ニ起因セラルハナレ且ツ其不注意ニモ二種アリ一ハ煖爐中破損ノ個處アルニ氣付カスレテ燃ヤシテ燃ヤスルニ因ルニ他ハ煖爐ノ使用方ヲ知ラスレテ長時間燻ニ焚タル繼續スルニ因ルモノ如レ依自今一層此等ノ莫ク注意シ若シ煖爐ノ要部ニ破損ノ個處アル者見レタルトキハ之レカ修理ヲ加スルニテハハ決シテ燃ヤスルハカラス又完全ナル煖爐トモ長時間燃ヤシテ繼續スルコトナク適宜ノ時間ニ於テ之レヲ

此ノ同時ニ火氣ノ上騰ヲ防キテ室内ニ導キ以テ煖ヲ取ルヲ要ス今在來ノ家屋ノ使用者漸ク多キヲ加ヘ場所ニ依リテハ既ニ空屋ナキ者ノリ況ンヤ復タ移住民渡航ノ季節ハ近ク自曉ノ間ニ迫リ家屋ノ需用倍々切實ニシトスルニ方リ一朝火ヲ失レテ之レヲ烏有ニ帰セシメ其ノ害及テ所帯ニ個人ノ生命財産ヲ損傷スルニ止マラス終ニハ本島拓殖上ノ向テ幾多ノ支障ヲ生ズルニ至ルヤ元側ルハ方ラス宣ホ恐レテ懼レサルハヤシヤ若シ火災ノ有無多少ハ一注意ノ厚薄如何ニ在ツテ存ス各人先シ須ラ細心留意シテ苟ニ萬一ノ失誤ナキヲ期シ以テ畏

日發セラタル告諭ノ趣旨ニ副ヒテ是レ切ニ本官ノ希望スル所ニシテ抑モ亦本諭告ヲ登スルニ至リ凡ソ以テナリ
明治三十九年二月二十日
樺太民政署支署官報第九號
事務官 柳原勉 乃
署 令
ウレシキコト支署令第九號
居住移轉及遷去ニ関スル届出規則
九通相定ム
明治三十九年二月二十日
樺太民政署支署官報第九號
事務官 柳原勉 乃



居住移轉及退去届出規則

第一條 當支署管内居住セ
ル者ハ其ノ住所ノ事項ヲ具シ
テ本署長ニ届出スルニ由ル
ル事ヲ以テ本署長ニ届出
スルニ由ル
一 本籍身分氏名及生年月日
二 現住所ノ住所及職業
三 渡航年月日及渡航届出手續
四 渡航後ノ経過及現住所並ニ職業
五 居住セシムル村名各地及他人ノ家
屋等ニ入ルル其ノ所有主又ハ借家
主ノ姓名書並ニ居住ノ自的
第六條 當支署管内ニ於テ其ノ居
住所ヲ移轉セシムル者ハ豫メ
本署長ニ届出スル書面ヲ以テ
本署長ニ届出スルニ由ル

一 本籍住所身分職業氏名及生
年月日
二 移轉セシムル村名各地及他人ノ家
屋等ニ入ルル其ノ所有主又ハ借家主
ノ姓名書並ニ移轉ノ事由
第三條 當支署管外ニ退去セシムル
者ハ豫メ本署長ニ届出スル書面ヲ
以テ本署長ニ届出スルニ由ル
一 本籍住所身分職業氏名及生
年月日
二 退去先及退去ノ事由
第四條 家族又ハ使用人ノ居住所
ヲ移及退去届ハ其ノ戸主又ハ使用人
ニ之ヲ為スルコトヲ要ス
第五條 出張所都府内ニ属スル前
各條ノ届書ハ當該出張所長
ヲ經由スル

第六條 本則第一條第二條第
三條及第四條ニ違背シタル者ハ
二拾日以下ノ罰金又ハ十日以下ノ
拘留ニ處ス

第七條 本令發布以前ニ於テ既
ニ當支署管内ニ居住シタル者ハ
本令施行ヨリ十五日以内ニ於テ
本則第一條ノ届出ヲ為スルニ由ル

特許漁業用山林伐採及土地使
用ニ關スル届出規則九ノ通相定ム
但本令施行ヨリ以前ニ於テ本
令施行ヨリ以前ニ於テ本
明治三十九年三月二十日

樺太民政署ウラップ支署長
事務官 柳原 勉 乃

特許漁業用山林伐採
及土地使用届出規則
第一條 漁業ノ特許ヲ受タル者
其ノ特許証裏書第一條第一号
ニ依リ薪炭用住宅其他漁業
ニ要スル建築及工作用並ニ漁具
漁具用ノ為メ山林ヲ伐採セシムル
キハ豫メ其ノ樹木ノ種類數量及
期間ヲ記シタル書面ニ伐採場
所ノ畧圖ヲ添ヘ當支署長ニ届出
スルニ由ル
第二條 漁業ノ特許ヲ受タル
者其ノ特許証裏書第一條第一

号ニ依リ住宅其ノ他換業ニ要ス
 ル建築及工作用敷地換業
 具置場網干場海産干場及
 蔬菜園ニ必要ナル海濱ノ土地
 ヲ使用セントスルキハ豫メ其ノ目
 的坪数及期間ヲ記シタル書
 面ニ使用場所ノ畧圖ヲ添ヘ
 當主署名又ハ出張所ニ届出ヲ
 示シ受クヘシ

第三條 本則第一條及第二條
 ニ違反シタル者ハ三十日以下ノ
 罰金又ハ十日以下ノ拘留ニ處シ
 尚ホ前者ニ對シテハ其ノ伐採樹
 木ヲ没收シ後者ニ對シテハ其ノ
 使用地ヲ原形ニ復セシム

3
 各部全 参 観

樺太民政署マツカ支署官報 第百九號

支署令

支署令第二號

特許漁業用材伐採及土地使用ニ
關スル件左ノ通り相定ム

明治三十九年一月三十一日

樺太民政署マツカ支署長

事務長 横田 郷助

第一條 漁業ノ特許ヲ受ケル者其ノ
特許証書更書第一号ノニ
依リ薪炭用材^ニ其他漁業ニ要

第三條 漁業ノ特許ヲ受ケル
者其ノ特許証書更書第一
條ノ二号ノ依リ任意其他漁業

要スル建築及工作用材^ハ漁業

第一号書式

及蔬菜園ニ必要ナル海濱土^ニ

特許漁業用材伐採由書式

ヲ使用セントスルモノハ第一号書

一採採ノ場所 樺太西海岸何

第四條 左ノ各項ニ該當スルモノハ

(甲) 薪材 何ノ 何尺ノ

拘留ニ處ス

(乙) 用材 何ノ 何尺ノ

一第一條又ハ第三條ノ届出ヲ

在賣支署令第三号更書第一條ノ依

二第二條ノ規定ニ違フモノハ

罰金^ノ 何月日 何尺ノ

明治三十九年一月三十一日

樺太民政署マツカ支署長

事務長

横田 郷助

是ノ建築及工作用材^ハ並
且用ノ為メ山林ヲ伐採セントス
ルモノハ第一号書式ニ依リ當支
署長ニ届出ツベシ

第三條 目通リ三寸以下ノ落葉松

及^ハ松^ノマツ^ノハ伐採スルコトヲ得

ズ

特許人 何某(○)

代理人 何某(○)

上ノ在連一

代理人 何某(○)

代理人 何某(○)

代理人 何某(○)

樺太民政署シラ支署長

事務官 横田仰助殿

特許書式

特許漢業田土地使用書式

一使用土地場所 別紙因申込

一使用土地坪数 何坪

内訳

住居 何坪

納屋 何坪

二種 何坪

何、合二

右貴文書令第ニ号第ニ條ニ

依り御届申上候也

昭和 年 月 日

代理人 何某(○)

代理人 何某(○)

代理人 何某(○)

本在連一

代理人 何某(○)

代理人 何某(○)

代理人 何某(○)

樺太民政署シラ支署長

事務官 横田仰助殿

彙報

本年一月二十日ヨリ樺太官報第百五

十號中後頁ニ在リ普通田土使用書式

ノ部取扱向始ニ付注意書取致在

記、通一、同、向、書、支、署、入、函、取

下、付、也

一、資、産、課、長、官、印、記、号、及、所

二、在、取、扱、向、始、ノ、部、取、扱、向、後、下

三、取、扱、向、始、ノ、部、取、扱、向、後、下

備考

取、扱、向、始、ノ、部、取、扱、向、後、下

一、範圍、在、連、一

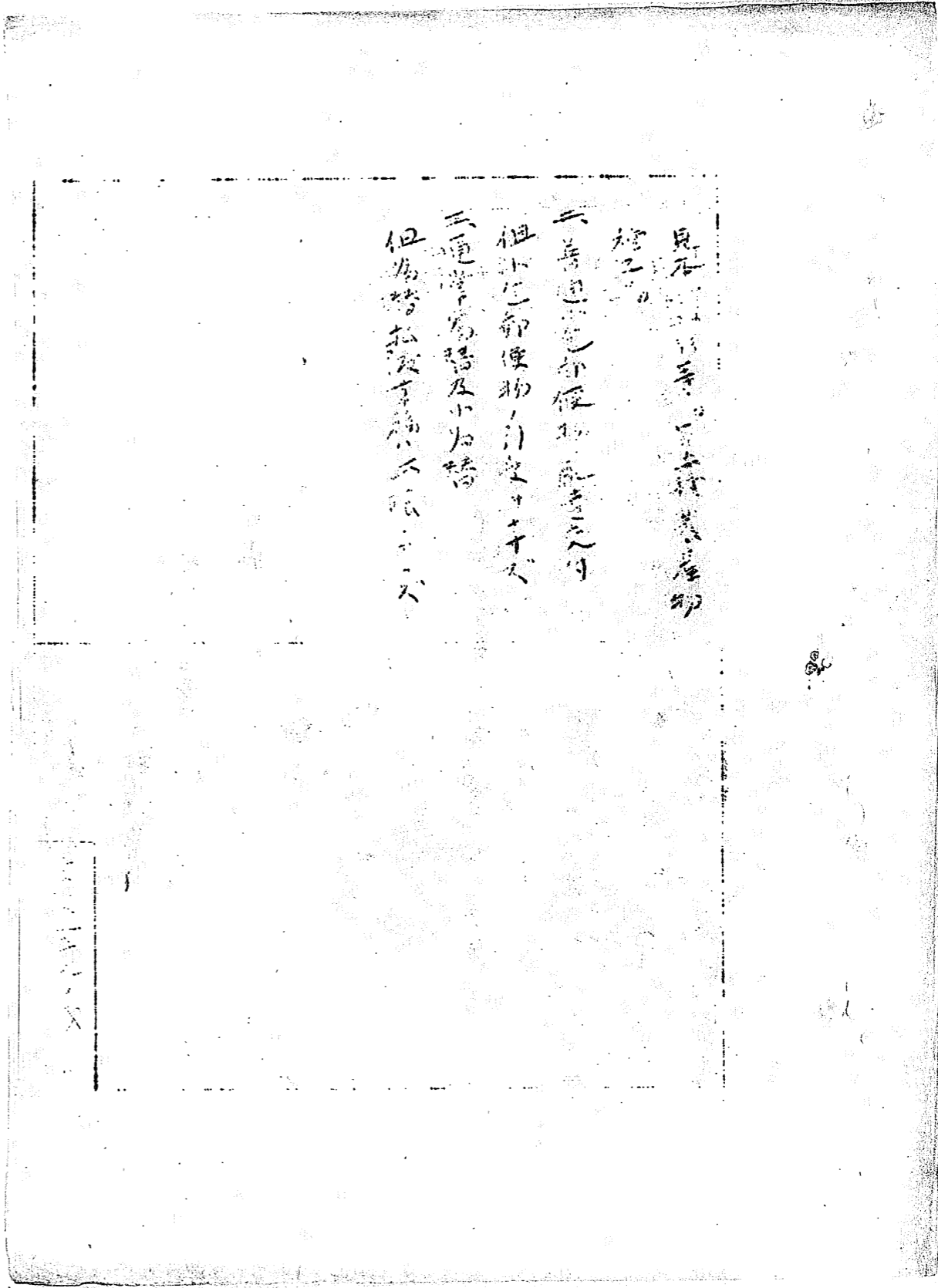
二、第一、種、乃、至、第、五、種、部、取、扱、向、後、下

三、取、扱、向、始、ノ、部、取、扱、向、後、下

四、取、扱、向、始、ノ、部、取、扱、向、後、下

五、取、扱、向、始、ノ、部、取、扱、向、後、下

六、取、扱、向、始、ノ、部、取、扱、向、後、下



見石
二
三

二
三

但
三

三
但

但
三

三
二
一

7-0142

0244

樺太民政署マウカ支署官報 第百九號

支署令

支署令第二號

特許漢業用材伐採及土地使用ニ
関スル件左ノ通り相定ム

明治三十九年一月三十一日

樺太民政署マウカ支署長

事務官 横田郷助

第一條 漢業ノ特許ヲ受ケル者其ノ
特許証書更書第壹條第一号ニ
依リ薪炭用位ニ其他漢業ニ依

第三條 漢業ノ特許ヲ受ケル
者其ノ特許証書更書第一
條第一号ニ依リ其他漢業

三、此ノ建築及工作用ニ必要ナル
漢具置場ニ必要ナル海濱ニ
及蔬菜園ニ必要ナル海濱ニ
ヲ使用セントスルモノハ第二号書
式ニ依リ当支署長ニ届出シ

第一号書式

特許漢業用材伐採書式

一、伐採ノ場所 樺太支署長何ノ
一、伐採ノ木 樺皮及松

一、新材

何ノ 何朝

何ノ 何朝

何ノ 何朝

何ノ 何朝

此書更書令第一号ノ第一條ニ依リ
届出シ候也

第二條 規定ニ違フモノハ
三十日以下ノ罰金又ハ十日以内ノ
拘留ニ處ス

三、

明治三十九年一月三十一日

樺太民政署マウカ支署長

此ノ建築及工作用 並ニ漢船
是ノ中ノ為メ山林ヲ伐採セントス
ルモノハ第一号書式ニ依リ当支
署長ニ届出シ

第二條 目通リ三寸以下ノ落葉松
及(シニゴマツ)ハ伐採スルモノヲ擇
ビ

第三條 目通リ三寸以下ノ落葉松
及(シニゴマツ)ハ伐採スルモノヲ擇
ビ

第三條 目通リ三寸以下ノ落葉松
及(シニゴマツ)ハ伐採スルモノヲ擇
ビ

第三條 目通リ三寸以下ノ落葉松
及(シニゴマツ)ハ伐採スルモノヲ擇
ビ

第三條 目通リ三寸以下ノ落葉松
及(シニゴマツ)ハ伐採スルモノヲ擇
ビ

第三條 目通リ三寸以下ノ落葉松
及(シニゴマツ)ハ伐採スルモノヲ擇
ビ

第三條 目通リ三寸以下ノ落葉松
及(シニゴマツ)ハ伐採スルモノヲ擇
ビ

第三條 目通リ三寸以下ノ落葉松
及(シニゴマツ)ハ伐採スルモノヲ擇
ビ

特許人 何果① 一使用地坪数 何坪

代理人又代理人ヨリ届出

十才在通

現場各書片 号(漢字不録)

特許人何果代領之文書

何果①

樺太民政署ヨリ支書長

事務官横田仰助殿

特許書式

特許事業用土地使用書式

一使用土地場所 別紙圖面通

一使用地坪数 何坪

何坪

納付何坪

何坪

何坪

何坪

右書文書全書第二号第三條ニ

依リ御届申上候也

明治 年 月 日

代理人 何果①

代理人又代理人ヨリ届出

一 貸借書状ニ準テ印候ノ記号在所

二 爲知海官職長名明記ノ事

三 在記帳簿ノ外ニ普通ノ書状印候上

見取ノ未納ノ取扱ヲナラズ

備考

取取同紙ノ普通ノ郵便爲替事務

ノ範圍在通

一 第一種乃至第五種郵便物ノ引文

及配付ノ人付

但ニ種書状ノ第一種業書ノ外

ニ種毎月一回以上列行スル定期物行

物ノ種書状ノ印候物ノ外

キハ在通

現場各書片 号(漢字不録)

特許人何果代領之文書

何果①

樺太民政署ヨリ支書長

事務官横田仰助殿

特許書式

本年一月二十日ヨリ樺太官備部第五

号取取同紙ノ普通ノ郵便爲替事務

ノ範圍在通

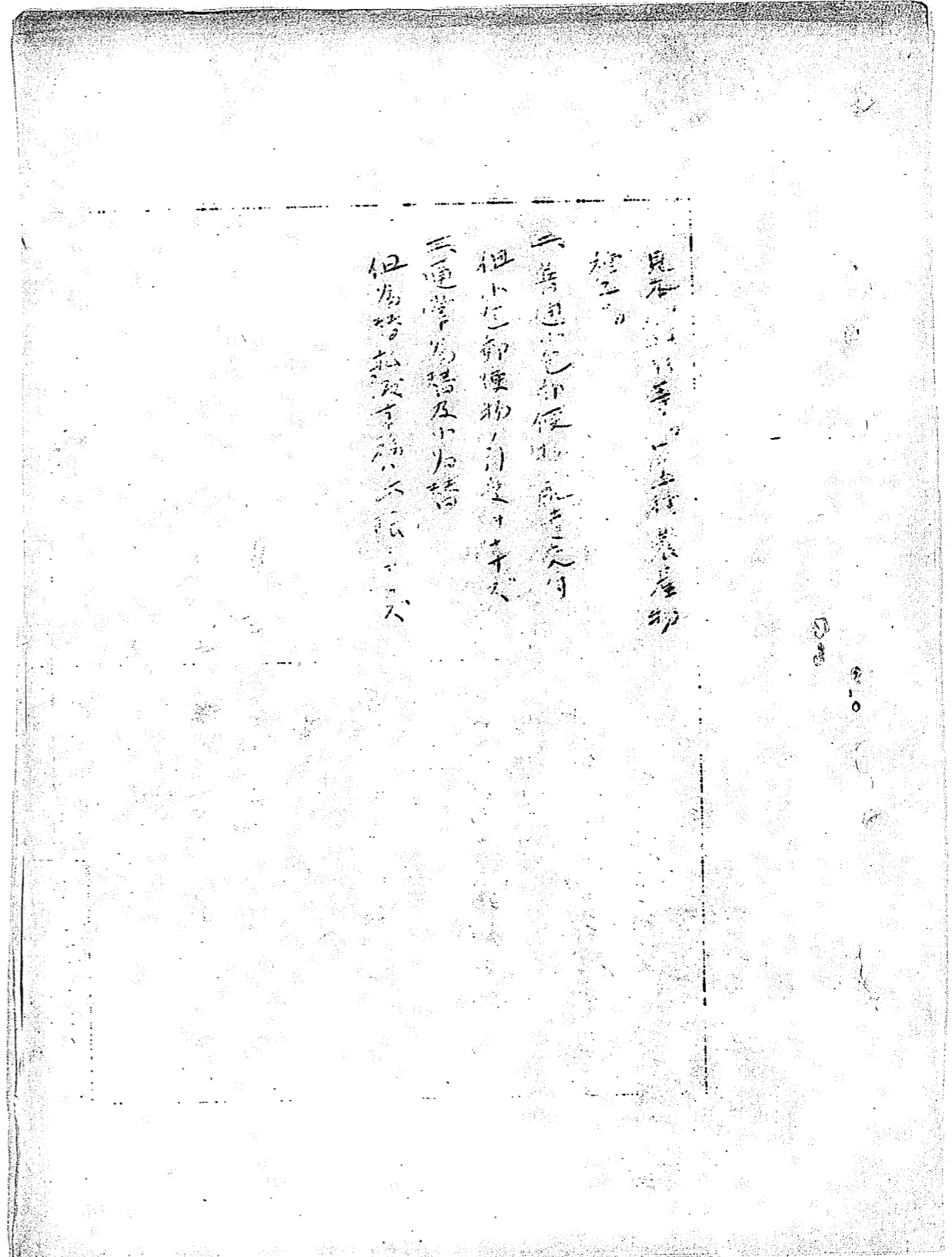
一 第一種乃至第五種郵便物ノ引文

及配付ノ人付

但ニ種書状ノ第一種業書ノ外

ニ種毎月一回以上列行スル定期物行

物ノ種書状ノ印候物ノ外



見本
一
二
三

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

7-0142

0247

樺太民政署マカ支署官報 第百六号

告示 示

告示第七号

明治三十九年三月二十八日支署告示第
四號住宅建設用材及自家用薪
材伐採場所別紙圖面一通追加
ス

追テ従前許可ヲ受ケタル場所ト同
号ノ場所ニ於テハ別ニ出願許可ヲ要
セズ伐採スルコトヲ得

明治三十九年三月一日

樺太民政署マカ支署長

明治三十九年三月一日 木曜日

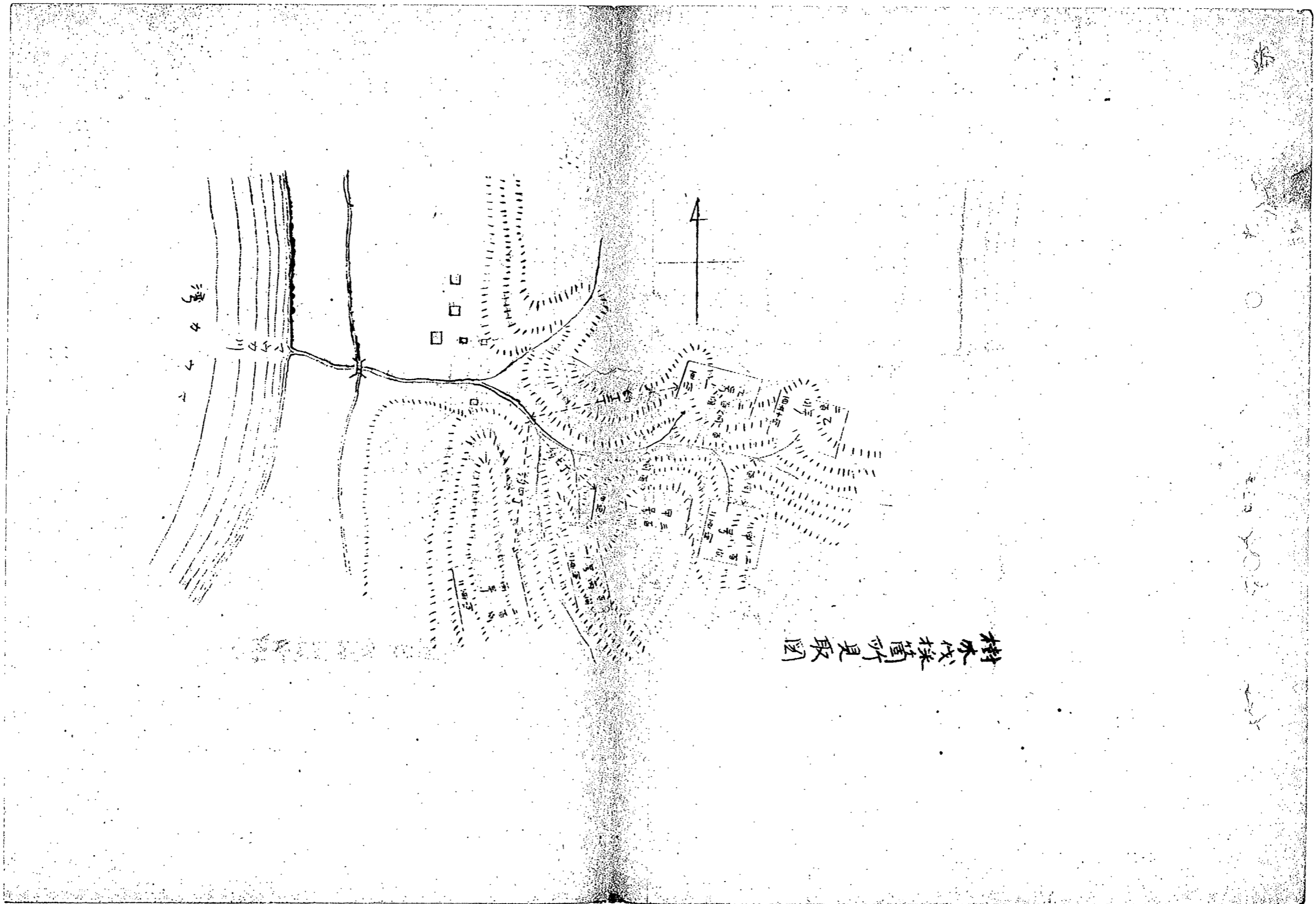
樺太民政署マカ支署
事務官 横田 郷助

樺太民政署マカ支署
支署マカ

定便金参銭

7-0142

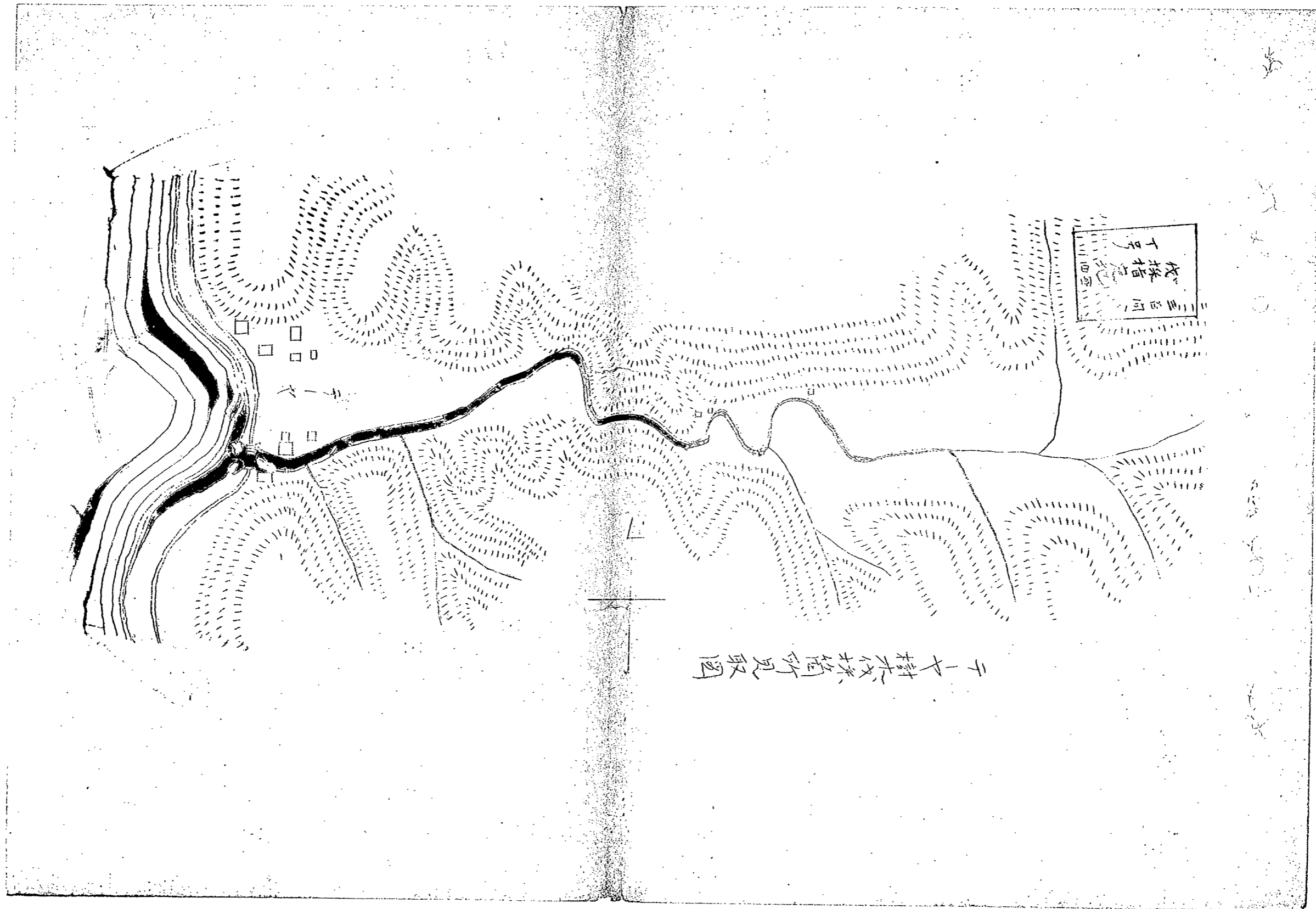
0248



樹木伐採箇所見取図

7-0142

0249



7-0142

0250

樺太民政署マカ支署官報 第百号

告 示

告示第七号

明治三十九年三月十八日支署告示第
四號住宅建設用材及自家用薪
材伐採場所別紙圖面通り追加
ス

追テ従前許可受ケタル場所ト同
号ノ場所ニ於テハ別ニ出願許可ヲ要
セズ伐採スルコトヲ得

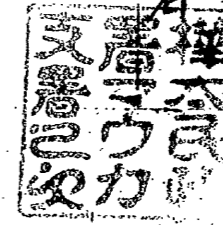
明治三十九年三月一日

樺太民政署マカ支署長

明治三十九年三月一日 木曜日

樺太民政署マカ支署

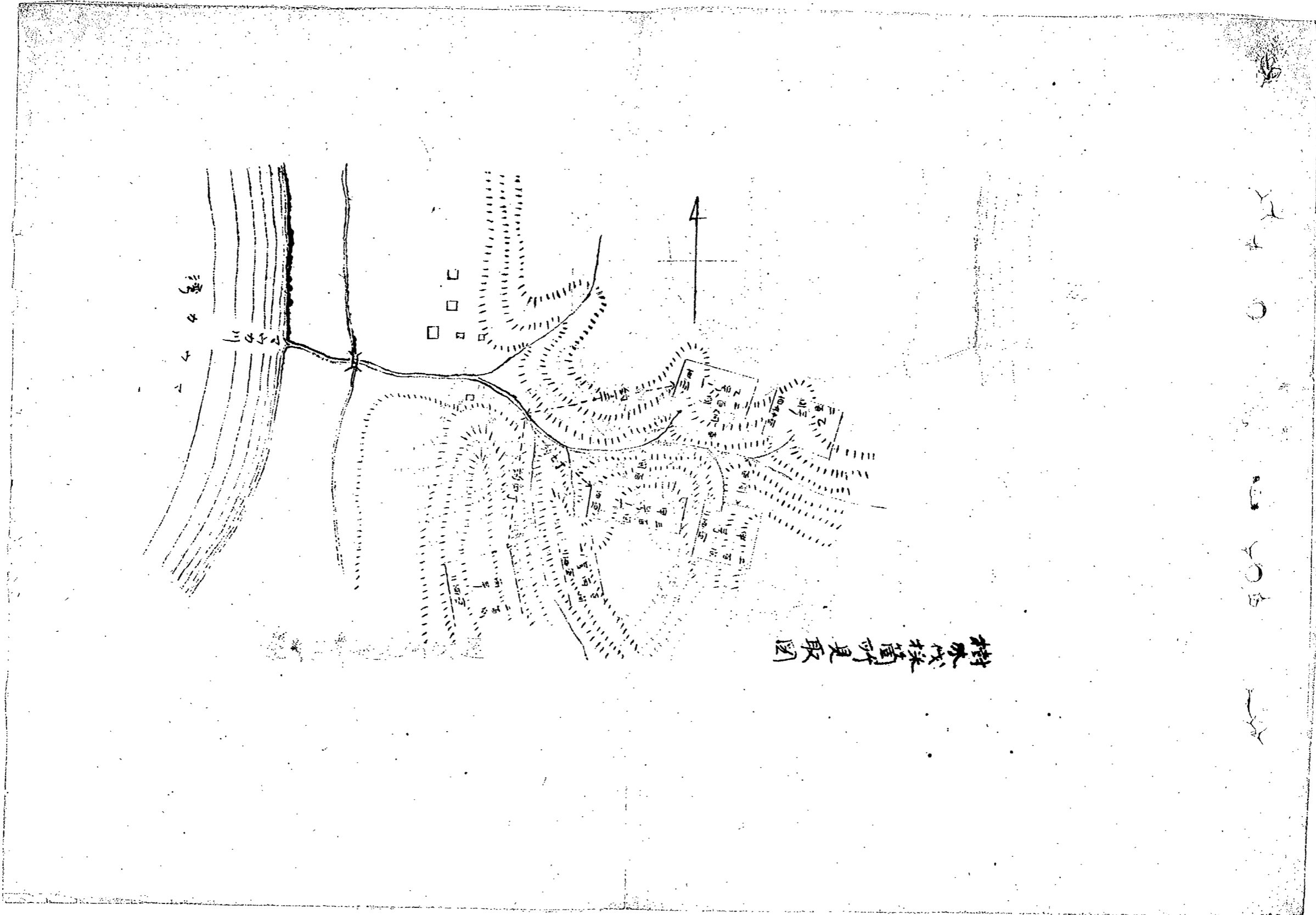
事務官 横田 郷助



定 價 金 券 銭

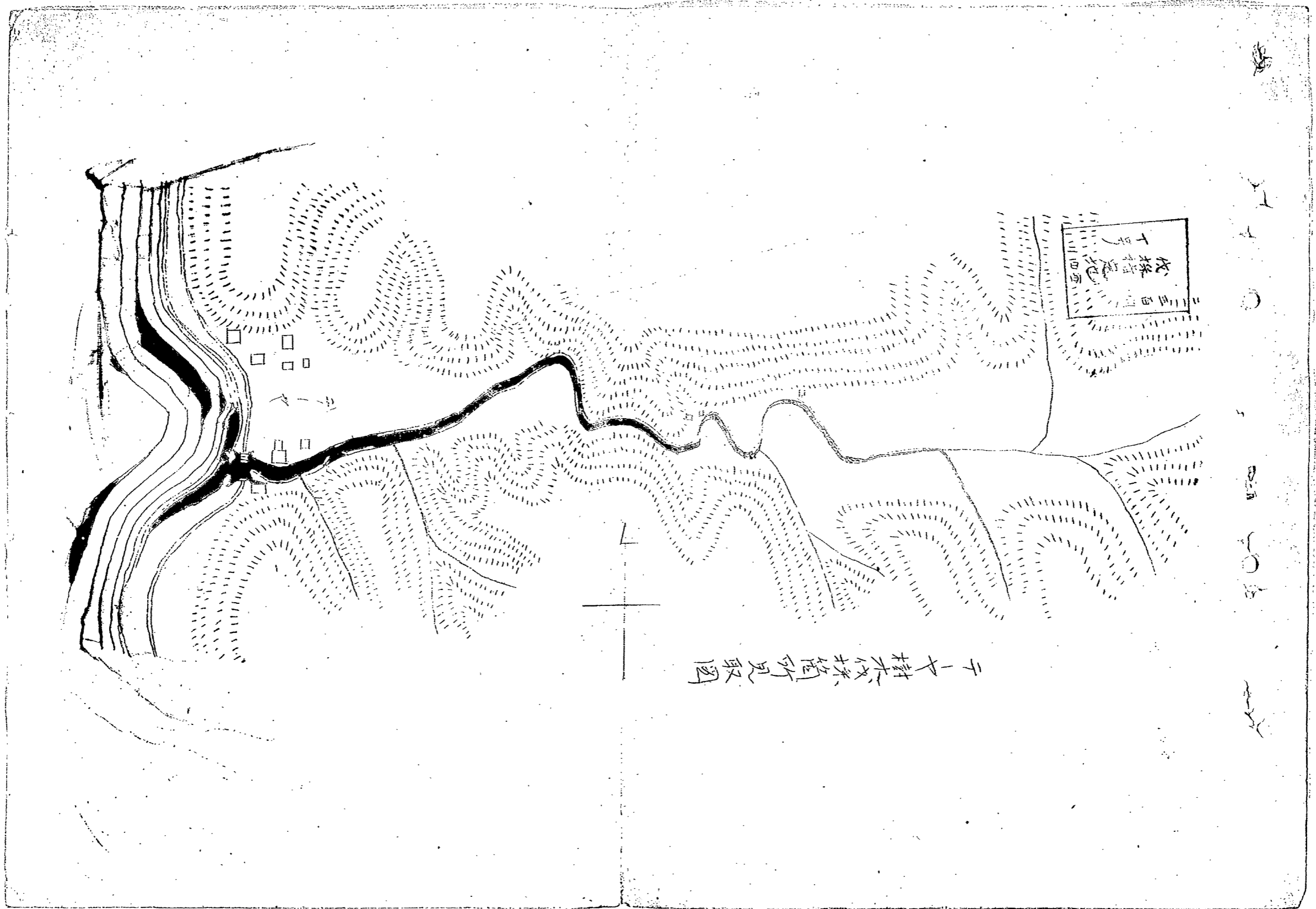
7-0142

0251



7-0142

0252



7-0142

0253

通商局

才武格参拜

五二八一

棟造内大臣權左兵衛尉之於子為利左衛門

權左兵衛尉官職

自才世二

令コルサコフ文署官職

自才七

令ウラギミコフ文署及職

才格参拜

令マウカ文署官職

才七参拜

右名郎部ツ市参考マラ進達之友、致具大

明治三十九年四月十四日

副参事館本陽之也

臨時外務大臣候齊西園寺公澄殿

陸軍

7-0142

0254

樺太民政署官報 第廿二號

明治卅九年三月廿六日 月曜日
樺太民政署

◎軍令

軍令第四十號

汽船取扱及舢舨營業取締規則左ノ通相定ム

明治三十九年三月二十六日

樺太守備隊司令官 山田保永

汽船取扱及舢舨營業取締規則

第一章 汽船取扱營業

第一條 汽船取扱營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ

具シ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ

一、原籍、住所、身分、氏名、年齢

二、營業ノ場所

三、取扱ヲ爲ス汽船ノ持主

四、屋號又ハ通稱

第二條 營業者ハ自ラ其ノ營業ヲ管理スル場合ノ外管

理人ヲ定メ運署ヲ以テ所轄民政支署長ニ届出ヘシ

其ノ之ヲ變更シタルトキ亦全シ

第三條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ五日以内ニ所轄民

政支署長ニ届出ヘシ

一、營業者ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ニ異動ヲ生

シタルトキ

二、支店ヲ設ケ又ハ之ヲ移轉シ若ハ之ヲ閉鎖シタル

トキ

三、廢業シタルトキ

四、取扱ヲ爲ス汽船ノ持主ヲ變更シタルトキ

五、營業ノ爲メ他人ヲ雇入レ又ハ之ヲ解雇シタルト

キ但シ雇入レノ届書ニハ其ノ原籍、住所、身分、氏

名、年齢ヲ記載スルヲ要ス

六、管理人又ハ雇入ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ニ

異動ヲ生シタルトキ

營業者死亡シタルトキハ其ノ家族、同居人又ハ其

ノ營業ニ關係アル者ヨリ五日以内ニ所轄民政支署

長ニ届出ヘシ但シ相續人又ハ他ノ家族ニ於テ引續

營業ヲ爲サントスルトキハ所轄民政支署長ニ届出

認可ヲ受クヘシ

第四條 營業者又ハ管理人ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一、客引ヲ出シ又ハ虚偽ノ手段ヲ以テ乘客又ハ貨物

主ヲ勸誘スヘカラサルコト

二、乗船賃、運賃及發着ノ汽船名ハ店頭其ノ他見易キ箇所ニ揭示スヘキコト

三、乗船賃ヲ受取リタルトキハ直ニ其ノ乗客ノ指定スル汽船ノ乗船切符ヲ交付シ若シ乗客ニ於テ指定セザルトキハ最近ニ出發スル汽船ノ乗船切符ヲ交付スヘキコト

四、傳染性疾患者、人ノ厭忌スヘキ疾患者、保護者ノ附添ハサル拾貳歳未満ノ幼者、狂醉者、癡癡者及白痴者ニ對シ乗船切符ヲ發賣スヘカラサルコト

五、乗客又ハ貨物主ニ對シ汽船發着ノ時刻ヲ偽リ其ノ他故意ヲ以テ乗船ヲ誤ラシムヘカラサルコト

六、乗船切符ヲ交付シタル後其ノ汽船ノ發着豫定時間ニ著シク異動ヲ生シタルトキハ速ニ其旨ヲ乗客ノ見易キ箇所ニ揭示スヘキコト

七、汽船ヲ指定シ又ハ日時ヲ豫定シテ貨物ノ同送ヲ託サレタル後其ノ汽船又ハ日時ニ乘載スルコト能ハザルトキハ其ノ事由ヲ貨物主ニ告知スヘキコト

八、妄ニ口實ヲ構ヘ乗客又ハ貨物主ノ指定スル汽船ヲ變更セシムヘカラサルコト

九、乗客ノ委託ナクシテ其ノ手荷物ヲ預リ又ハ貨物主ノ承諾ヲ得スシテ荷造ヲ改ムヘカラサルコト

十、宿屋營業ヲ兼スル者ノ外乗客ヲ宿泊セシムヘカラサルコト

十一、附錄様式ニ依リ乗客人名簿ヲ備ヘ乗客アル毎ニ様式ニ示ス事項ヲ記載シ置キ最終記載ノ日ヨリ一年間保存スヘキコト

第十二條 乗客ハ營業者若ハ管理人ノ請求アルトキハ乗客人名簿ニ記載ヲ要スル事項ヲ告ケ又ハ乗客人名簿ニ之ヲ記載スヘシ

第十三條 營業者又ハ管理人本章ノ規定ニ違背シ又ハ公安ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ所轄民政支署長ニ於テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一、營業ノ停止ヲ命ジ又ハ許可ヲ取消スコト

二、支店ノ閉鎖ヲ命スルコト

三、家族、同居人又ハ雇人ノ使用ヲ禁止、停止又ハ雇人ノ解雇ヲ命スルコト

第十四條 管理人ノ變更ヲ命スルコト

第十五條 憲兵長ニ於テ必要ト認ムルトキハ乗客アル毎ニ時間ヲ限リ乗客人名簿ニ記載ヲ要スル事項ヲ補出ヲ命スルコトヲ得

第二章 船中營業

第十六條 船中營業ヲ爲サントスル者ハ第一條第一號第一號第四號ノ事項及營業用ニ供スル船中數(乗客

船中ニハ定員ヲ附記シ)ヲ具シ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ

第九條 第二條ノ規定ハ船中營業者ニモ亦之ヲ適用ス

第十條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出ヘシ但シ第二號ノ場合及廢業シタルトキハ船中檢査證ヲ返納シ第三號ノ場合ハ船中檢査證ノ再下付又ハ書換ヲ受クルコトヲ要ス

一、第三條各號ノ事項アリタルトキ但シ第四號ノ場合ヲ除ク

二、船中ノ毀損、亡失、讓渡シ又ハ其使用ヲ廢止シタルトキ

三、船中檢査證ヲ毀損、亡失シ若ハ其ノ記載事項ニ異動ヲ生シ又ハ其ノ文字不明ニナリタルトキ

四、管理人ヲ置キタルトキハ前項第二號及第三號ノ手續ハ管理人ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

五、營業者死亡シタルトキハ其ノ家族同居人又ハ其ノ營業ニ關係アル者ヨリ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出船中檢査證ヲ返納スヘシ但シ相續人又ハ他ノ家族ニ於テ引續營業ヲ爲サントスルトキハ所轄民政支署長ニ届出船中檢査證ヲ書換ヲ受クヘシ

第十一條 營業者又ハ管理人ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一、第四條第一號、第五號及第七號乃至第十號ノ事項

二、所轄民政支署ノ檢査ヲ受ケ合格シタル船中ニ非サルハ營業ニ使用スヘカラサルコト

三、檢査ニ合格シタル船中ニハ船中檢査證ヲ受ケ船中ノ見易キ箇所ニ釘附スヘキコト

四、船中タラシナル者ハ年齢滿拾八歳以上ノ強壯ナル男子ニ限ルヘキコト

五、定員外ニ客ヲ乘載スヘカラサルコト但シ拾貳歳未満ノ者ハ二人ヲ以テ一人ニ算シ五歳未満ノ者ハ定員外トス

六、第四條第四號ニ掲クル者及惡臭ヲ發シ又ハ危險不潔ノ物品ヲ乘載スヘカラサルコト

七、貨物船中ニハ客ヲ乘載スヘカラサルコト

八、所轄民政支署長ノ認可ヲ受ケ船中ノ賃銀ヲ定ムヘキコト其ノ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

九、船中ノ賃銀ハ船中及店頭其他見易キ箇所ニ揭示スヘキコト

十、定額ノ賃銀ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ金銀ヲ領収スヘカラサルコト

十一、正當ノ事由ナクシテ乗船及發船ヲ拒ムヘカラサルコト

十二、暴風其ノ他ノ危險ヲ冒シテ發船スヘカラサル

第十三、夜間ハ艀舟ニ點燈スヘキコト

第十二條 所轄民政支署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ營業者又ハ管理人ニ對シ隨時場所ヲ指定シテ艀舟ノ検査ヲ受ケシムルコトヲ得

何等ノ事由アリシニ拘ハラヌ前項ノ検査ヲ受ケザル艀舟ハ其ノ期日以後更ニ検査ヲ受ケル迄營業ニ使用スルコトヲ得ス

第十三條 營業組合ヲ設ケントスルトキハ其ノ規約ヲ添ヘ所轄民政支署長ニ届出認可ヲ受ケヘシ其ノ規約ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第十四條 營業者又ハ管理人ハ本章程ノ規定又ハ本章程ノ程ニ依リ命令ズル事項ニ違背シ又ハ公安ヲ害シ危害ヲ生ズルノ虞アリト認ムルトキハ所轄民政支署長ニ於テ第六條各號ノ處分ヲ爲スノ外尙左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一、組合ノ解散又ハ其ノ規約ノ變更ヲ命ズルコト

二、艀舟ノ改造又ハ其ノ使用ノ禁止、停止ヲ命ズルコト

三、艀舟ノ數ヲ制限スルコト

四、艀舟賃錢ノ變更ヲ命ズルコト

第十五條 危害豫防上必要ト認ムルトキハ憲兵ニ於テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一、定員ノ如何ニ拘ハラヌ乗客人員ヲ制限スルコト

二、乗載貨物ノ容量ヲ制限スルコト

三、艀舟ノ修繕又ハ艀舟ニ必要ノ設備ヲ命ズルコト

第三章 罰則

第十六條 左ノ各號ニ該當スル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ三十日以内ノ禁錮ニ處ス

一、第一條及第八條ノ許可ヲ受ケズシテ營業ヲ爲シタル者

二、第六條、第十四條及第十五條ノ命令又ハ制限ニ從ハサル者

三、第十三條第一項ノ認可ヲ受ケズシテ營業組合ヲ設ケ又ハ其ノ規約ヲ變更シタル者

第十七條 左ノ各號ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一、第三條第二項及第十條第三項ノ死亡届ヲ爲サ、ル者及認可ヲ受ケズ若ハ艀舟検査證ノ書換ヲ受ケズシテ引續營業ヲ爲シタル者

二、第七條ノ命令ニ從ハサル者及第十二條第一項ノ指定ニ從ヒ艀舟ノ検査ヲ受ケサル者

三、第十一條第八號ノ認可ヲ受ケズシテ艀舟ノ賃錢

ヲ定メ又ハ之ヲ變更シタル者

四、第二條、第三條第一項、第四條、第五條、第九條、第十條第一項、第十一條(第八號ノ場合ヲ除ク)第十二條第二項及第十三條第二項ニ違背シタル者

第十八條 營業上ニ關シテハ家族、同居人又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者又ハ管理人其ノ責ニ任ス

第四章 附則

第十九條 本令ハ明治三十九年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 本令施行前運送營業ノ許可ヲ受ケ現ニ汽船取扱又ハ艀舟營業ヲ爲ス者ハ本令ニ依リ更ニ許可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ効ヲ生ゼス

附録様式(乗船人名簿)

附記スルヲ以テ是レトス
 同行中重立タル者又ハ進行ノ長上者ヲ式ニ從テ記載シ他ノ人員ヲ
 女子席、襷等ヲ進行スル者ニシテ其ノ原籍、身元、明瞭ナルトキハ
 以テ是レトス又ニ一般人民ト雖モ一市町村、一部落ノ數名同行シ或ハ
 名并ニ隊伍ノ人員ニ止テ其ノ他ノ官公吏、其ノ官職、氏名ヲ記スルヲ
 備考 軍隊、學生等ノ隊伍ヲ組ミタル者ハ其ノ引率スル上司ノ官職、氏
 名并ニ隊伍ノ人員ニ止テ其ノ他ノ官公吏、其ノ官職、氏名ヲ記スルヲ
 以テ是レトス又ニ一般人民ト雖モ一市町村、一部落ノ數名同行シ或ハ
 女子席、襷等ヲ進行スル者ニシテ其ノ原籍、身元、明瞭ナルトキハ
 同行中重立タル者又ハ進行ノ長上者ヲ式ニ從テ記載シ他ノ人員ヲ
 附記スルヲ以テ是レトス

乗船年	月	日	時	定	時	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名

附録様式(乘船人名簿)

用紙小判十二行

氏名

職業及住所

國籍又ハ原籍及住所

船名

定額

乗船年

署令

署令第十一號
 便所設置規則左ノ通相定ム
 明治三十九年三月二十六日
 樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

便所設置規則

第一條 家屋ヲ建設シタル者及家屋一時使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ家屋ニ居住スル前便所ヲ設置スヘシ其ノ自ラ居住セスト雖入ヲ居住セシムル者亦同シ但シ家屋一時使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ家屋ニ便所ノ設置ナク若ハ設置アリト雖其ノ構造第二條ノ規定ニ適合セサルモノアル場合ニ限ル

第二條 便所ノ構造ハ左ノ各號ニ依ルヘシ
 一、道路ニ沿ヒタル箇所ニ設置スルトキハ必ス背面
 向ト爲ヌコト
 二、便池ハ滲漚ノ虞ナキ材料ヲ以テ構成スルコト
 三、便所ノ上縁周圍ハ厚キ漆喰ト爲スコト
 四、壁紙ハ木板又ハ滲漚ノ虞ナキ材料ヲ以テ高サ一尺以上ニ組立ツルコト

第三條 便所ハ飲料水ヲ距ル五間以内ノ地ニ設置スヘ

カラス但シ土地ノ狀況ニ依リ止メテ得サルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 所轄民政支署長ニ於テ衛生上必要ト認ムルトキハ便所ノ改築、修繕又ハ位置ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 本令又ハ本令ニ依リ命令スル事項ニ違背シタル者ハ貳拾圓以下ノ罰金又ハ十日以内ノ拘留ニ處ス

附 則

第六條 本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二條ハ明治三十九年六月二十日ヨリ之ヲ施行ス

第七條 本令施行前家屋ヲ建設シ又ハ家屋一時使用ノ許可ヲ受ケ現ニ居住シ若ハ入ヲ居住セシムル者ニシテ便所ノ設置ナキ者ハ本令施行ノ日ヨリ十五日以内ニ之ヲ設置スヘシ

第八條 本令施行前設置シタル便所ニシテ其ノ構造第二條ノ規定ニ適合セス又ハ第三條ノ規定ニ抵触ス

ルモノハ本年六月三十日迄ニ改築又ハ移轉ヲ爲ス
ヘシ
本令施行後設置シタル便所ニシテ其ノ構造第二條
ノ規定ニ適合セザルモノハ本年六月三十日迄ニ改
築スヘシ
一時使用ノ許可ヲ受ケタル家屋ニ附屬スル便所ニ
シテ第一項ニ該當スルモノハ第二項ノ期日以後之
ヲ使用スルコトヲ得ス

告示

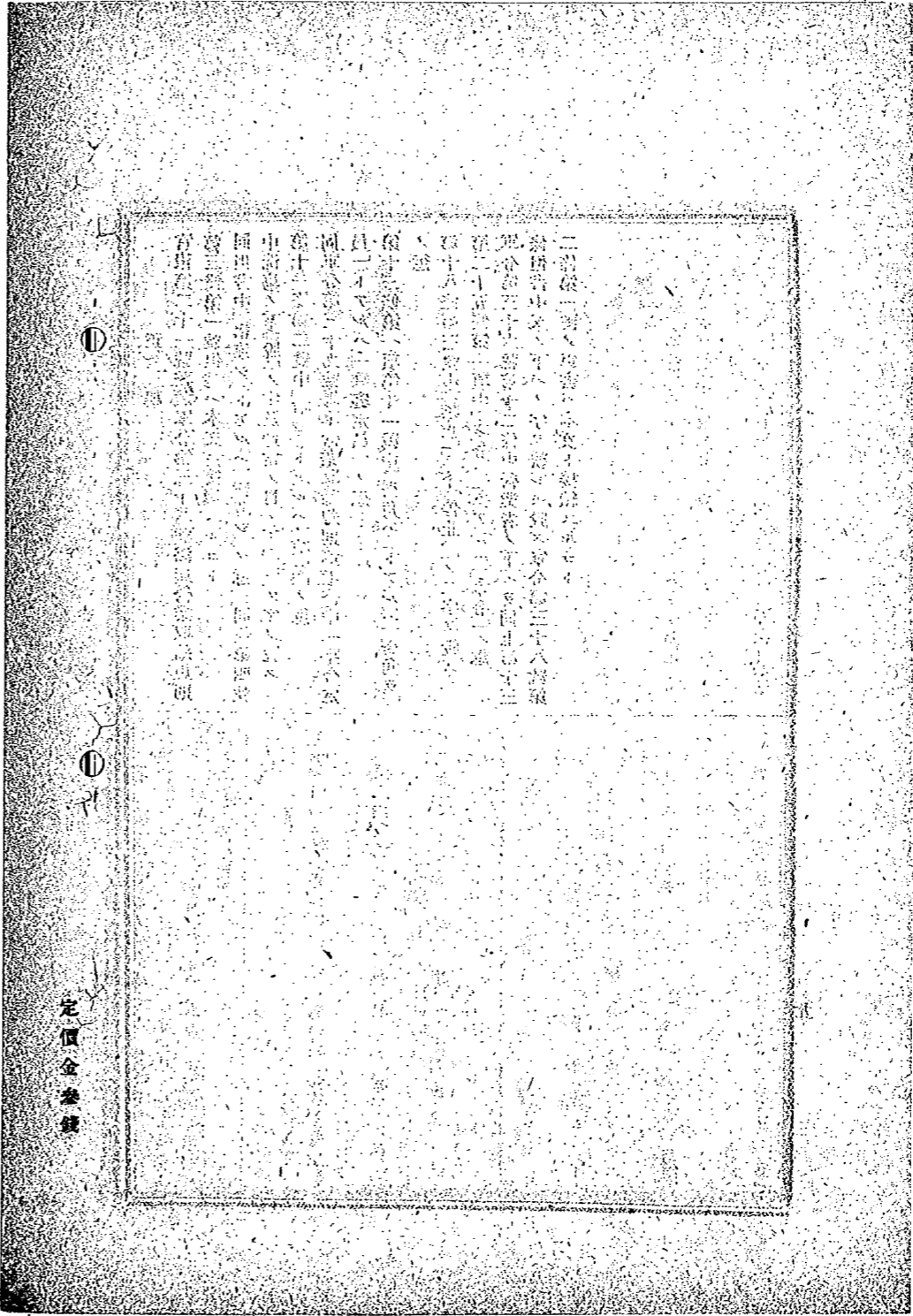
告示第十號
馬車營業取締規則第十五條ニ依リ馬車ノ賃銀左ノ通相
定ム
明治三十九年三月二十六日
樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

乗 合 馬 車	乗客一人ニ付	雇	切	手荷物其ノ他貴重品	貨物	普通	馬	付	貨物	雇	切
	半里未満	金拾錢以内	一人分ノ賃銀ニ定員數ヲ乘シタル額以内	十貫目以上	十貫目以内	十貫目以上	十貫目以内	十貫目以内	金七錢以内	金五錢以内	金參拾錢以内
半里以上	金拾六錢以内	同	上	金拾六錢以内	金拾錢以内	金拾壹錢以内	金八錢以内	金五拾錢以内			
一里以上	半里又ハ二里ヲ増ス毎ニ前記ノ割合ヲ以テ増額ス										

一、乗合馬車ノ乗客拾貳歳未満ノ者ハ各所定ノ半額トシ五歳未満ノ者ハ無賃トス
一、貨物ノ重量廿貫目以上ナルトキハ其ノ廿貫目ヲ超過スル部分ニ限り二貫目毎ニ各所定ノ一割以内ヲ増額ス
一、夜間又ハ雨天、吹雪ノトキ若ハ雨後、融雪後等ニシテ道路泥濘ナルトキハ各所定ノ一割半以内ヲ増額シ夜間且ツ雨天、吹雪ノトキ若ハ雨後、融雪後等ニシテ道路泥濘ナルトキハ各所定ノ三割以内ヲ増額ス

正 誤

官報第二十一號登載軍令第三十八號湯屋營業取締規則
第三條第一號但書ハ本文ニ接續スルコト
同但書中「構造シ」トアルハ「構造シ」ノ意 同條第四號
中洗場ノ下「脱」ノ字及適當ノ目ノ下「隠」ノ字ヲ脱ス
第十一條第二號中「噴嚏」トアルハ「噴嚏」ノ意
同軍令第三十九號馬車營業取締規則第七條中「乗合定員」トアルハ「乗客定員」ノ意
第十三條第一項第十一號中「街角ハ」トアルハ「街角ヲ」ノ意
第十八條第三號中「禁止」ノ下「停止」ノ二字ヲ脱ス
第二十五條第一項中「本令ハ」トアルハ「本令」ノ意
軍令第三十六號第十二條中營業者ノ下ハヲ同上第十三條但書中又ノ下ハノ字ヲ脱ス軍令第三十八號第三條第一號ノ但書ハ本文ト接續スルコト



定價金參錢

7-0142

0260

樺太民政署官報 第廿三號

明治卅九年三月三十日 金曜日
樺太民政署

◎軍令

軍令第四十一號
旅行者取締規則左ノ通相定ム

明治三十九年三月三十日

樺太守備隊司令官 山田保永

旅行者取締規則

第一條 民政施行地域外へ旅行セントスル者ハ特別ノ規程ニ依ルモノ、外本令ニ依リ最寄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ願書ニハ左ノ事項ヲ具スヘシ

- 一、旅行者ノ原籍、住所、身分、職業、氏名、年齢
- 二、旅行ノ目的
- 三、旅行ノ地域
- 四、旅行ノ日數

第三條 旅行ヲ許可スヘキ者ハ明治三十八年八月陸軍省告示第十六號ニ依リ渡航シタル者ニ限ル

第四條 左ノ各號ニ該當スル者ハ貳拾圓以下ノ罰金又

ハ十日以内ノ拘留ニ處ス

一、許可ヲ受ケスシテ旅行ヲ爲シタル者

二、虚偽ノ手段ヲ以テ旅行ノ許可ヲ受ケタル者

三、旅行許可證ヲ他人ニ貸與シタル者

附 則

第五條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

軍令第四十二號

明治三十八年九月軍令第十六號ハ本日限り之ヲ廢止ス

明治三十九年三月三十日

樺太守備隊司令官 山田保永

正 誤

官報第二十二號掲載軍令第四十號中「船トアルハ總テ汽船ノ意」

全上第十條第二號及第十一條第九號中其ノ下「ノ」ノ字

ヲ脱ス

全上第十四條中規程トアルハ規定ノ意

樺太民政署官報 第廿四號

明治卅九年四月二日 月曜日
樺太民政署

軍令

軍令第四十三號

汚物掃除規則左ノ通り相定ム

明治三十九年四月二日

樺太守備隊司令官 山田保永

汚物掃除規則

第一條 本令ニ於テ汚物ト稱スルハ塵芥、汚泥、汚水及尿管ヲ謂フ

第二條 家屋ニ居住スルモノハ其ノ邸宅及附近ニ於ケル汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ

第三條 塵芥、汚泥及尿管ハ所轄民政支署長ニ於テ指定シタル場所ニ非サレハ之ヲ投棄スルコトヲ得ス

第四條 掃除義務者ハ掃除シタル塵芥、汚泥ヲ即時ニ投棄セザルトキハ適當ノ容器ニ之ヲ蒐集スヘシ

第五條 掃除義務者ハ土地ノ清潔保持ノ爲メ憲兵ノ指

示ニ從ヒ溝渠ノ築造、廢撤、改造又ハ修繕ヲ爲スヘシ

溝渠ノ汚水ハ無害ノ場所ニ排泄スヘシ

第六條 本令ニ依リ義務者ニ於テ執行スヘキ事項ヲ執行セス又ハ之ヲ執行スルモ十分ナラスト認ムルトキハ所轄民政支署長ハ代テ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ハ義務者ヨリ之ヲ徴取スルコトヲ得

前項ノ處分ハ豫メ執行期間ヲ定メテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ必要ノ時限内ニ執行シ得スト認メタルトキハ此ノ限リニ在ラス

第七條 左ノ各號ニ該當スル者ハ貳拾圓以下ノ罰金又ハ十日以内ノ拘留ニ處ス

一、憲兵ノ督促ヲ受ケテ塵芥、汚泥ノ掃除ヲ爲サス若ハ容器ニ蒐集シタル塵芥、汚泥ヲ投棄セザル者

二、憲兵ノ督促ヲ受ケテ尿管ヲ投棄セス若ハ汚水ヲ排泄セザル者

三、第三條、第四條第一項及第五條第一項ニ違背シタル者

附 則
第八條 本令ハ明治三十九年四月二十日ヨリ之ヲ施行ス
第九條 本令ハ當分ノ内ポロアントマリ、コルサコフ、ウラジミロフカ、ガルキノウフスゴエ、及マウカニ限リ之ヲ施行ス

定價金三錢

7-0142

0263

樺太民政署官報 第廿五號

明治卅九年四月十日 火曜日
樺太民政署

●署令

署令第十二號
樺太市街豫定地使用假規則左ノ通相定ム

明治三十九年四月十日

樺太民政署民政長官 熊谷 喜一郎

マツカ市街豫定地使用假規則

第一條 假ニ土地ヲ使用セントスル者ハ左ノ各號ヲ具

シ別紙書式ニ依リマツカ支署長ニ願出特許ヲ受ク

ルベシ

一、使用ノ目的

二、使用ノ區劃數及其ノ番號

三、使用者ノ渡前ノ住所、原籍地、身分、職業、氏名

及年齢

第二條 土地使用ノ期間ハ特許ノ日ヨリ滿一箇年トス

第三條 土地使用ヲ特許スヘキ區域ハ別ニ告示ス

第四條 使用ヲ特許スヘキ土地ハ住宅、店舗、社寺、佛

堂、學校其ノ他公共ノ用ニ供スヘキ建物並ニ其ノ

附屬地トシテ必要ナルモノニ限ル

第五條 土地ノ使用ハ別段ノ規定アルモノヲ除外シ

人一區劃以上トシ一區劃ヲ分割シテ使用スルコト

ヲ許サズ

第六條 土地使用料ハ別段ノ規定ニ依ル但シ社寺、佛

堂、學校其ノ他公共ノ用ニ供スヘキ建物並ニ其ノ

附屬地ニ必要ナル土地ハ使用料ヲ免除ス

第七條 土地使用料ハ特許ノ際參箇月分ヲ前納シ爾後

其ノ期限ノ終ル毎ニ後ノ參箇月分ヲ前納スヘシ但

シ一月、二月、十二月ノ參箇月ハ土地使用料ヲ免

除ス

第八條 官ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ土地

使用ノ特許ヲ取消スコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ

官ハ之レカ賠償ノ責ニ任セズ

第九條 土地ノ現形ハ特許ヲ得ルニアラサレハ之ヲ變

更スルコトヲ得ズ

第十條 土地使用ノ特許ヲ受ケタル者三十日以内ニ建

築工事ニ着手セズ若ハ指定ノ期限内ニ建築工事落

成セザルトキハ特許ノ効ヲ失フモノトス定期内ニ

使用料ヲ納付セザル者亦同シ
 第十一條 特許取消ノ處分ヲ受ケタル者ハ一月以内ニ地上ノ物件ヲ除去スヘシ特許ノ効ヲ失ヒタル者亦同シ
 第十二條 特許取消ノ處分ヲ受ケタル者又ハ特許ノ効ヲ失フモ既納ノ使用料ハ還付セズ
 第十三條 土地使用ノ特許ハ他人ニ讓渡又ハ貸渡スルコトヲ得ス
 第十四條 第九條ニ違背シタルトキハ使用ノ特許ヲ取消シ且又原形ニ復セシム計以內ニ復舊セザルトキハ官ニ於テ復舊シ又ハ第三者ヲシテ復舊セシメ其ノ費用ハ之ヲ義務者ヨリ徴收ス
 第十五條 此ノ假規則ニ依リ特許ヲ受ケタル者ト雖將來發布セラルヘキ本規則ヲ遵守スヘキハ勿論トス
 附 則
 第十六條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

(別紙)
 (書式) (用紙小判紙)
 土地使用願
 一、使用ノ目的
 二、營業ニ屬スルモノハ營業ノ種類其
 三、使用ノ區劃數及其番號
 何々第何區
 右使用ノ義務特許相成度奉願候特許相成候上其總テ假則
 命令及特許ニ附セザル條件ヲ嚴守相守申可候也
 年 月 日
 住所(渡前ノ住所ヲ記ス) 原籍地
 身分、職業、氏名、生年月日
 權人民政署ツカ支署長
 事務官 何 某殿

○ 告 示

告示第十一號
 マツカ市街豫定地使用假規則第六條ニ依リ土地使用料
 左ノ通相定ム
 明治三十九年四月十日
 權人民政署民政長官 熊谷喜一郎

一、壹等地	一坪ニ付	一ヶ月	金 貳 錢
一、貳等地	同	同	金 壹 錢
一、參等地	同	同	金 五 厘
一、四等地	同	同	金 參 厘

土地使用ノ特許ガ月ノ十五日以前ニ係ルモノハ全月分
 ヲ其ノ十五日以後ニ係ルモノハ半月分ヲ徴收ス

樺太民政署官報 第廿六號

告示

明治廿九年四月十四日 土曜日

樺太民政署

但シ戸籍謄本若クハ抄本ヲ所持スルモノハ添付ス
ヘシ

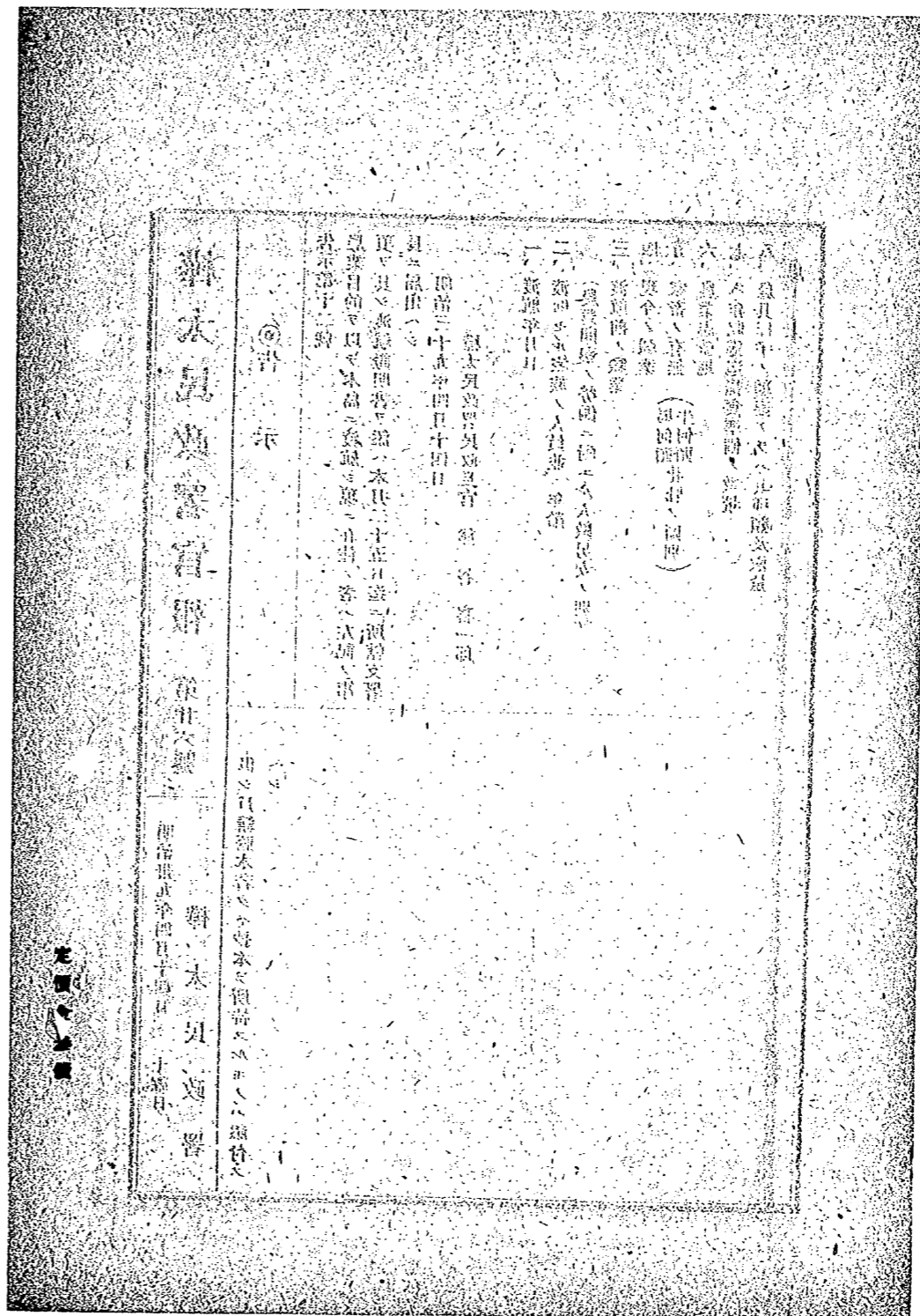
告示第十二號

農業目的ヲ以テ本島ニ渡航シ現ニ在住ノ者ハ左記ノ事
項ヲ具シ渡航證明書ヲ添ヘ本月二十五日迄ニ所轄支署
長ニ届出ヘシ

明治二十九年四月十四日

樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

- 一、渡航年月日
 - 二、渡航セル家族ノ人員並ニ年齢
(農業開墾ノ勞働ニ耐ユル人数男女ノ別)
 - 三、渡航前ノ職業
 - 四、現今ノ職業
 - 五、家畜ノ有無 (馬何頭 牝牡ノ區別)
 - 六、農業志望地
 - 七、本年收穫迄糧食準備ノ數量
 - 八、農具種子ノ準備アリハ其種類及數量
- 以上



7-0142

0268

樺太民政署コルサコフ支署官報 第六號

◎支署令

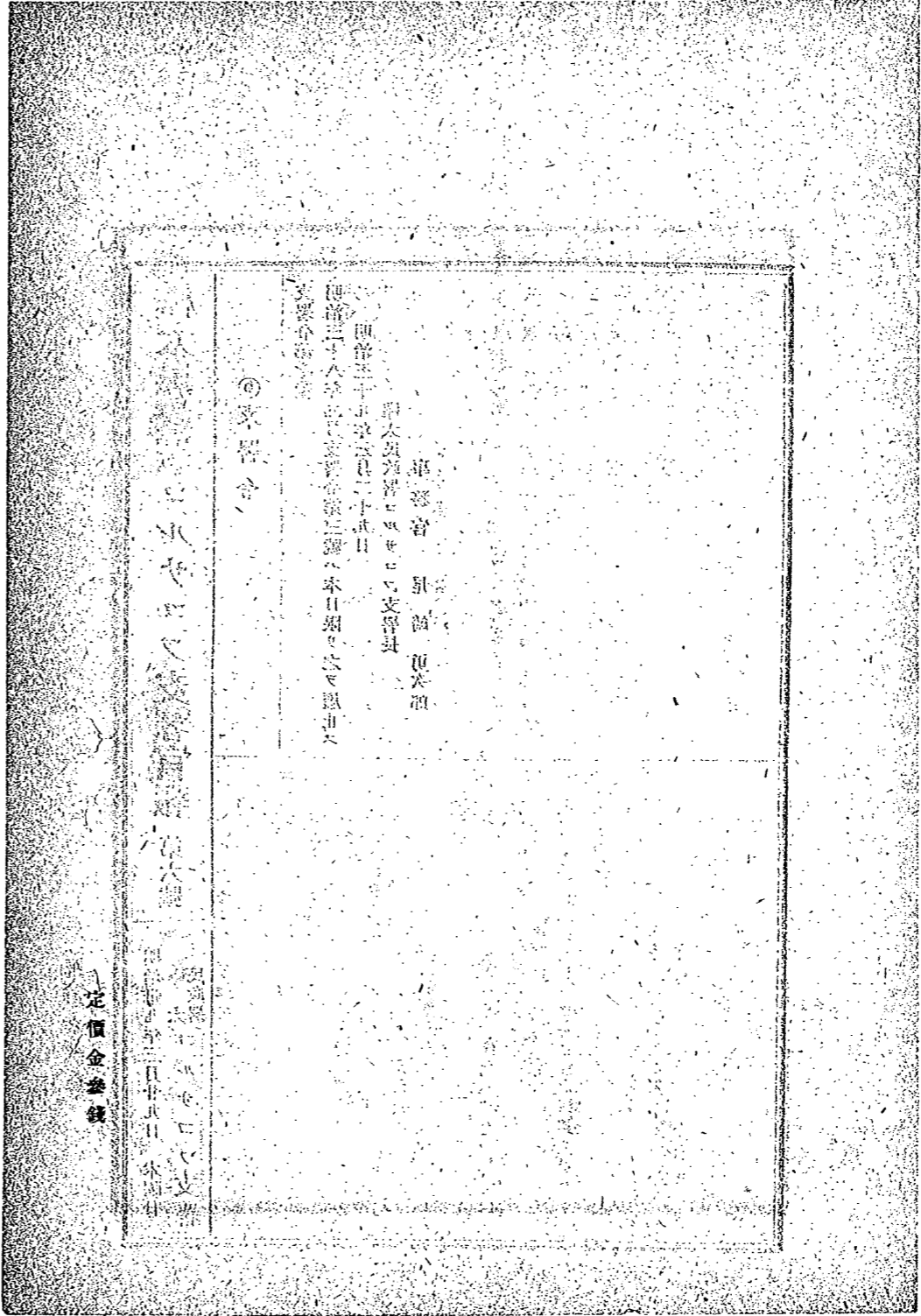
支署令第七號
明治三十八年九月支署令第三號ハ本日限リ之ヲ廢止ス

明治三十九年三月二十九日

樺太民政署コルサコフ支署長
事務官 尾崎 勇次郎

明治卅九年三月廿九日 木曜日
樺太民政署コルサコフ支署





7-0142

0270

樺太民政署コルサコフ支署官報第七號

明治卅九年四月十二日 木曜日
樺太コルサコフ支署
民政署

◎支署令

支署令第八號
漁業ノ特許ヲ受ケタル者其ノ所要ノ木材伐採及土地使
用ニ關スル件左ノ通相定ム

明治三十九年四月十二日

樺太民政署コルサコフ支署長
事務官 尾崎 勇次郎

第一條 漁業ノ特許ヲ受ケタル者特許證書裏書第一條
第一號ニ依リ山林ヲ伐採セントスル時ハ第一號書
式ニ依リ支署長ニ届出ツヘシ
第二條 漁業ノ特許ヲ受ケタル者特許證書裏書第一條
第二號ニ依リ土地ヲ使用セントスル時ハ第二號書
式ニ依リ支署長ニ届出ツヘシ
第三條 本令ニ依リ伐採シタル木材ハ支署長ノ許可ヲ
得スシテ他ニ轉賣譲與スルコトヲ得ズ
第四條 本令ニ違背シタル者ハ貳拾圓以下ノ罰金ニ處
ス

第五條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第一號書式

特許漁業用山林伐採届

一、伐採場所 何々 (別紙圖面ノ通)
二、伐採樹木ノ種類及數量

(イ) 用材 何々 何尺
(ロ) 薪炭材 何々

三、伐採及振出期間 自何年月日 何日 何月 何日 何日 何日

右山林伐採致度明治三十九年四月支署令第八號ヲ遵守
シ此段及御届候也

年 月 日

漁場名稱、鑑札番號
特許人 何 某印

樺太民政署コルサコフ支署長
事務官 何 某殿



<p>第二號書式 特許漁業用土地使用届</p> <p>一、場所 名稱(別紙圖面ノ通) 一、面積 何坪(別紙圖面ノ通)</p> <p>内 譯 住 宅 何 坪 納 屋 何 坪 何 々 何 坪</p> <p>右土地明治 年 月 日ヨリ使用致度明治三十九年四月支署令第八號ヲ遵守シ此段及御届候也</p> <p>年 月 日</p> <p>漁場名稱、鑑札番號 特許人 何 某印</p> <p>樺太民政署コルサコフ支署長 事務官 何 某殿</p>	<p>◎告 示</p> <p>支署告示第六號 明治三十九年四月軍令第四十三號汚物掃除規則第三條ニ依リ常警管内ノ汚物投棄場ヲ左ノ通指定ス 明治三十九年四月十二日</p> <p>樺太民政署コルサコフ支署長 事務官 尾崎 勇次郎</p> <p>一、ボロアソドマリ楠溪通信所前ヨリ南南東高地標示ノ場所 一、コルサコフ官設厩場與標示ノ場所 一、コルサコフ山下町東北高地標示ノ場所</p>
--	--

定 價 金 參 錢

檳榔
民政署ウツ言フ支署官報第拾號

明治三十九年四月二日 理
檳榔
民政署ウツ言フ支署

諭

支署官報第拾號
目下水害漸解、初期ニオリク
ハレテ積雪中、封鎖ニモ居
ル塵埃、其、他、汚濁、露出
シ更ニ泥、土、塵、埃、中、道、路、
臭氣ヲ放シ、然、中、道、路、
人、密、固、固、不、潔、ハ、一、
衛、生、及、交、通、上、寸、時、
サ、沈、沈、ラ、望、セ、リ、今、
ル、方、法、ヲ、講、セ、リ、ハ、交、通、
勿、論、掃、雪、ノ、基、礎、タル、清、潔、
保、持、ハ、餘、ニ、積、雪、ハ、バ、カ、
シ、ノ、顧、リ、管、内、ニ、於、テ、
期、セ、ラ、レ、ン、コ、ト、ラ、望、ム

者ノ多数、實ニ水嶋開港、前駐
方ニシテ、今、方、サ、勇、往、邁、進、以、
所、志、ヲ、貫、徹、ス、キ、春、暖、ノ、好、季、節
際、セ、リ、若、シ、夫、レ、道、路、ノ、難、易、身、体
、健、否、ハ、各、人、ノ、前途、本、嶋、將、来
、細、シ、果、シ、テ、如、何、ト、シ、關、係、ヲ、有、ス、
、サ、蓋、シ、テ、過、ル、ム、コ、ト、ヲ、
、本、官、ハ、深、ク、感、入、ル、所、アリ、以、際、特、
、大、清、潔、法、ヲ、勵、行、シ、尚、取、速、ニ、之、ヲ、持
、續、セ、ン、コ、ト、各、人、共、ニ、モ、亦、能、ク、其、趣
、音、ヲ、領、シ、テ、各、種、ニ、依、リ、テ、道、路
、及、密、固、固、ノ、汚、濁、ヲ、掃、除、シ、常、
、無、ク、交、通、ノ、利、便、ト、清、潔、ノ、保、持、ト、
、期、セ、ラ、レ、ン、コ、ト、ラ、望、ム

明治三十九年三月二十九日
檳榔民政署ウツ言フ支署長
事務官 柳原勉

旭記

一、各居住者、其ノ家屋、出、
タル道路、汚、濁、ヲ、掃、除、シ、
可、成、路、面、ヲ、平、坦、シ、テ、汚、水、
、停、滯、ヲ、排、除、ス、
、密、固、固、ノ、汚、物、ヲ、掃、除、シ、且、
、汚、水、ノ、停、滯、ヲ、排、除、シ、テ、屋、内、亦、不
、善、ク、滲、透、ス、ル、コ、ト、ヲ、樣、注、意、ス、
、
一、飲料水、及、便、用、水、直、傳、特、
、注、意、ヲ、加、シ、汚、水、滲、透、汚、物、混
、入、等、ノ、虞、ナ、ラ、シ、ム、ハ、シ、

一、清潔下水及汚水溜等ハ常ニ
能ク浚深掃除ヲ為シ其ノ疏通
ヲ良クスル
一、便所ハ就中注意ヲ加、便池外ニ糞
尿ノ漏泄滲透スル様ノ虞ナカラ
シムル
一、掃除シタル塵埃其、他、汚物ハ通
宜無害ノ場所ニ棄積シ毎周二回
以上最寄共同塵埃棄却場ニ
運搬シテ棄却スル
前各号ノ實行ニ関シテハ隣保相扶
ク又互ニ教言善奨勵ニ遺憾ナキヲ
期スル
支署
令
明治三十九年四月二日
支署官報第拾號

地籍行規則ハ自今民政施行正域
 内ニ於テハ旅行者ニ適用セリ
 明治三十九年三月三十一日
 樺太民政署少シ言力支署長
 事務官 柳原勉乃

告

少シ言力支署告示第百五號
 管下少シ言力支署村共同釐米
 却場ヲ九ノ三ノ所ニ設定ス
 明治三十九年三月三十一日
 樺太民政署少シ言力支署長
 事務官 柳原勉乃
 共同釐米却場設置
 少シ言力支署村第三番地裏
 標本細域

一同村第五番地裏 全
 一同村第五十七番地裏 全
 上

少シ言力支署告示第百五號
 今般管下少シ言力支署村北端橋界
 ヲリ西北約二丁ヲ距ル樹林中ニ官
 設屠畜場新築ニ自明治三十八
 年時本署告示第百七号ノ使用料ヲ
 以テ一般屠畜ノ使用ニ供ス
 明治三十九年四月一日
 樺太民政署少シ言力支署長
 事務官 柳原勉乃

私報電信取扱關シ樺太守備階第
 五野戰郵便局共テ左ノ如ク廣告
 2

明治三十九年三月二十五日
 樺太民政署少シ言力支署
 本島内地間ノ私報ハ至急報ニ限リ
 其料金ハ通常ニ倍ス
 電報ノ料金完納ノモトニ限リ郵便
 三電報在中ノ記載スルニ以テ場合
 二於テハ其普通郵便料ニ限リ無
 料トスルコトヲ得

港部金参銭

料大
民政署ウシニ言ハルガ事官報第拾號

明治三十九年四月二日 月曜
料大
民政署ウシニ言ハルガ事官報第拾號

論

告

ウシニ言ハルガ事官報第拾號
目下氷雪融解ノ初期ニ至リタルニ
バ久シク積雪中ノ村路ニ塵埃ノ露出
シ塵埃其ノ他ノ汚物等ノ露出
シ臭氣ヲ放シテ市中ノ衛生ヲ害スル
人等周囲ノ不潔ニ一層甚シクシテ
衛生及交通ニ寸時モ妨阻シテ
キ状況ヲ望セリ今ニシテ之ノ不潔
ルノ者法ヲ講セリテ交通ノ不便ハ
勿論倫上ノ基礎タル清潔ノ
保持ハ終ニ復舊ノ上ニシテ至ラ
ズニ願フニ管内ニ於ケル現居住

者ノ多数ハ實ニ本嶋開港ノ前駐
者ニシテ今々方々ニ勇往邁進以テ其
所志ヲ貫徹スルニ奮勵ノ時季ニ
際スル者ニ至リテ道路ノ難易身体
ノ健否ハ各人ノ前途本嶋ノ将来
ニ何ノ是レヲ如何ナル關係ヲ有スル
キ乎蓋シ吾人ニ過ルモノアリシガ
本官ノ深ク感入ル所アリ以テ
之清潔法ヲ勵行シ高尚潔遠ニ
續セントス各人ニ於テモ亦熱ク其趣
旨ヲ領レテ各各ノ依リテ道路
及家屋周囲ノ汚物ヲ掃除シ常
ニ清潔ノ交通ノ利便ト清潔ノ保持トヲ
期セラシムト望ム

明治三十九年三月二十九日
樺太民政署ウシニ言ハルガ事官報第拾號
事務官 柳原也乃

旭記

一各居住者ノ其ノ家屋ニ沿フ
タル道路ノ汚物ヲ掃除シ且ツ
可成路面ヲ平坦トシ汚水ノ
停滞ヲ排除スル
一各屋周囲ノ汚物ヲ掃除シ且ツ
汚水ノ停滞ヲ排除シテ屋内床下
等ニ滲透スルコトヲ注意スル
一飲料水及使用水ノ通流時
注意ヲ加ヘ汚水滲透汚物混
入等ノ虞ナカシムル

一清潔下水及汚水溜蓄ハ常ニ
能ク深潔掃除ラセテ其ノ疏通
ヲ良クスル
一便所ハ純中注意ヲ加便池外ニ糞
尿ノ漏洩ヲ注意スル様ノ虞ナカラ
シムル
一掃除シタル塵埃其ノ他ノ汚物ハ通
常無害ノ場所ニ棄積シ毎週二回
以上最害共同處ニ棄却場ニ
運搬シテ棄却スル
一前各号ノ實行ニ関シテハ隣保組狀
ク又ハ各號長等ヲ獎勵シテ進捗ヲモ
期スル

ウシニ言ハルガ事官報第拾號
民政署ウシニ言ハルガ事官報第拾號
明治三十九年四月二日 月曜



地籍行編制ハ自令民政施行区域
内ニ於テ旅行者ニ適用セズ
明治三十九年三月三十日
樺太民政署ウシヨリ支署長
事務官 柳原 勉 乃

告示
支署告示第百九號
管下ウラベニヨリカ村共同養老
却場ノ元ノ三ノ所ニ設置ス
明治三十九年三月三十一日
樺太民政署ウシヨリ支署長
事務官 柳原 勉 乃
共同養老及棄却場位置
一ウラベニヨリカ村第三番地裏
標示地域

一 同村第五番地裏 全 全
一 同村第五十七番地裏 全 上

告示
支署告示第百九號
今般管下ウラベニヨリカ村北端橋界
ヨリ西北約二丁ヲ距ル橋林中ニ官
設屠畜場新築ニ付明治三十八
年時本署告示第七号ノ使用料ヲ
以テ一般屠畜ノ便用ニ供ス
明治三十九年四月一日
樺太民政署ウシヨリ支署長
事務官 柳原 勉 乃
私報電信取扱ニ関シ樺太守備隊第
五野戰郵便局共ニ在ラ如ク廣告

明治三十九年三月二十五日
樺太民政署ウシヨリ支署長
本島内地間ノ私報ニ至急報ニ限リ
其料金ハ通常ニ倍スル
電報ハ料金完納ノモノニ限リ郵便
ヨリ發送スルモノ得但封筒表面
ニ「電報在中」ト記載スル此場合
ニ於テハ其普通郵便料ニ限リ無
料トナスコトヲ得

港部金 参 覽

樺太民政署マウ支署長報 第七號

明治三十九年三月十一日

樺太民政署マウ

支署令 第三號

支署令第三號

渡航届出規則九ノ通ニ相定ム

明治三十九年三月十二日

樺太民政署マウカ支署長

事務長 橋本 用御助

渡航届出規則

第一條 當支署マウカ渡航シモル上陸

後直ニ元記事項ヲ具シ届出テ其届出

ノ証ヲ受ケル

一 原籍及前住所

第三條本則規定ニ違背シ者ニ

代理人ニ於テ之ニ為ル事ヲ要ス

其ノ戸主ヨリ使用人ニ就テハ戸主又ハ其

第二條前條届出ノ家族就テハ

贈答ヲ添付スル事ヲ要ス

人以外者身元証明書及戸籍

渡業許可ヲ得ル者及其使用

五 渡航ノ目的

四 乘船名 上陸ノ日及上陸地

三 姓名 年齢

ニ 身分 職業

指目以下ノ罰金又ハ十日以收拘留ニ

第四條本則ニ發布ニ施行ス

支署長 橋本 用御助



樺太民政署マウカ支署長報

明治三十九年三月十一日

樺太民政署マウカ支署長

支署令

支署令第三號

渡航届出規則九通相定

明治三十九年三月十二日

樺太民政署マウカ支署長

事務官 横田御助

渡航届出規則

第一條 當支署管内渡航ニモハ上陸

後直ニ元記事項ヲ具シ届出シ其届出

シ証書ヲ受ケル

一 原籍及前任所

ニ 身分、職業
三 姓名、年齢

四 渡航名、上陸日及上陸地
五 渡航目的

渡業許可を得たる者及其使用
人以外者、身分証明書及戸籍
謄本ヲ添付スル事ヲ要ス

第二條 前條、届出シ家族ニ就キテ

其ノ戸籍ヲ使用シ就テハ家主又ハ其

代理人ニ於テ之ヲ為事ヲ要ス

第三條 本則規程ニ違背シ者ニ

指目以下罰金又ハ十員以下拘留ニ

處ス

第四條 本則發布日ヨリ施行ス

定價金三錢

明治三十九年五月一日

才助松田

六一五〇

樺太支隊支隊長官署に於て及利松田

樺太支隊支隊長官署に於て

自才助七号

左マ少カ支隊長官署に於て

樺太支隊支隊長官署に於て及利松田

明治三十九年四月廿五日

副領事館本陽之助

兼任外務大臣候爵西園寺公望殿

通商局

陸軍

陸軍

7-0142

0279

樺太民政署官報 第廿七號

明治卅九年四月二十日 金曜日
樺太民政署

◎軍令

軍令第四十四號
樺太官有土地建物貸付假規則左ノ通り相定ム

明治三十九年四月二十日

樺太守備隊司令官 山田 保 永

官有土地建物貸付假規則

第一條 此ノ規則ニ於テ官有土地建物ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル未開地既墾地及家屋其ノ他ノ附屬物ヲ謂フ

第二條 官有土地建物ノ貸付處分ハ此ノ規則ニ依リ民政署民政長官之ヲ執行ス

第三條 農事又ハ牧畜ノ爲メ移住スル者ニ限リ此ノ規則ニ依リ官有土地建物ヲ貸付スルコトヲ得

第四條 市街地附近ニ於テハ蔬菜耕作ノ爲メ官有土地ヲ貸付スルコトヲ得

第五條 建物及既墾地並ニ既成牧場ノ貸付ハ有償トス其ノ料金ハ別ニ之ヲ定ム

第六條 未墾地ノ貸付ハ無償トシ成墾後拾貳ケ年目ヨリ別ニ定ムル所ノ地料ヲ徴收ス

但シ成墾後相當代價ヲ以テ拂下ルコトアルヘシ

第七條 貸付スヘキ官有土地建物ハ左ノ各號ニ依ル

- 一、農業目的ノ者ニハ農家ニ來家屋一戸及ヒ其附屬舎並ニ其ノ宅地九百坪以内
 - 二、農牧ニ供スル土地七町五反歩以内
 - 三、移住ノ初年ニ限リ別途既墾地貳町歩以内
 - 四、牧畜目的ノ者ニハ第壹號ノ建物及宅地ノ外牧場地五拾萬坪以内
 - 五、蔬菜耕作ノ目的ノ者ニハ土地貳町歩以内
- 第八條 官有土地建物ノ貸付ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ戸籍抄本ヲ添ヘ別紙書式ニ依リ民政長官ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ
- 一、借受ケントスル土地、建物ノ表示
 - 二、使用ノ目的
 - 三、起業ノ方法
 - 四、渡航前ノ住所、原籍、職業、身分、氏名、年齢
- 牧畜ノ爲メ土地建物ノ貸付ヲ受ケントスル者ハ前各



號ノ外所有牛馬匹ヲ記載スヘシ

第九條 貸付シタル官有土地建物ノ修理其ノ他ノ費用ハ借受人ノ負擔トス

第十條 官有土地建物貸付期限中官ニ於テ公用又ハ公益ノ事業ニ供スル必キアルトキハ貸付ノ許可ヲ取消シテ期日ヲ指定シテ之ヲ返還セシムヘシ此ノ場合ニ於テハ借受人ハ其ノ直接ニ受ケタル損失ニ付補償ヲ求ムルコトヲ得

第十一條 官有土地建物ノ貸付ノ許可ヲ得タル者ニシテ指令書受領ノ日ヨリ一月以内ニ其ノ土地又ハ建物ニ在任セザルトキハ貸付許可ノ効ヲ失フ

但シ民政長官ノ許可ヲ得タル者ハ此ノ限ニアラス

第十二條 官有土地建物ノ借受人ハ民政長官ノ許可ヲ得シテ其ノ地形及建物ノ形状ヲ著シク變更シ又ハ故意怠慢ニ依リ亡失、毀損シ若ハ荒廢ニ歸セシメタルトキハ官ニ於テ其ノ損害ヲ賠償セシムヘシ

第十四條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ依ルニアラズシテ土地ノ荒廢ニ歸セシメ若ハ起業方法ノ如ク成功セス又ハ豫定ノ目的ニ使用セザルトキハ貸付ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十二條ニ違背シタル者及貸付料金ヲ指定ノ期限内ニ納付セザルモノ者亦同シ

命令ヲ以テ定メタル成効期間内ニ成業セザルトキハ其ノ未成業地ハ無償ニテ返地セシムルモノトス

第十五條 前條ニ依リ許可ヲ取消シタルトキハ未開地ニ屬シタル伐採樹木ノ代金ヲ辨償セシム其ノ金額ハ民政長官ニ於テ評價ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 官有土地建物ノ貸付期限中自己ノ都合ニ依リ返還スルトキハ其ノ土地建物内ニ存在スル借受人ノ物件ハ官ニ於テ指定シタル期限内ニ之ヲ除去スルベシ若シ除去セザルトキハ官ニ於テ之ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ爲サシメ其ノ費用ヲ借受人ヨリ徴收ス期限満了ニ由リ返還スルトキ及貸付ノ許可ヲ取消シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ既納ノ料金ハ之ヲ還付セス

第十七條 官有土地建物ノ貸付期限中隨時其ノ使用保存及修理ノ實況ヲ検査シ不都合ト認ムルトキハ官ニ於テ修理又ハ改良ヲ命スルコトアルヘシ

第十八條 土地整理ノ爲メ必要ナルトキハ無償ニテ貸付地域又ハ建物ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十九條 前各條ニ規定スルモノノ外許可ノ際民政長官ノ定メタル命令事項ハ之ヲ遵守スヘシ

第二十條 此ノ假規則ニ依リ官有土地建物ノ貸付ノ許可ヲ受ケタル者ト雖モ將來發布セザルヘキ本規則ヲ

遵守スヘシ

第二十一條 此ノ規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

書式第一號ノ(一)

官有土地貸付願

何村(區劃何線何番)(若ハ官ニ於テ御指定ノ地番)

一、未開地何町何反歩 目的

右無償貸付之義御許可相成度御許可ノ上ハ官有土地建物貸付假規則及將來發布セラルル規則ハ堅ク遵守シ起業方法ノ通り成業可仕此段奉願候也

明治 年 月 日

原籍

現住所

身分、職業

氏 名 生 年 月 印

樺太民政署民政長官何某殿

書式第一號ノ(二) (畑ノ例)

起業方法書

何村何番地

一、官有未開地何坪

書式第一號ノ(三) (牧場ノ例)

起業方法書

何村字何々

一、未開地何萬坪

二、樹木ノ種類員數

三、所有牛馬數

四、事業方法

收種若クハ土壘ノ築設養殖ノ要領其他番人及牧夫ノ入數管理ノ方法等詳細記入ヲ要ス

右之通り候也

右

何 某 印

二、樹木ノ種類員數 松目通 何寸 何本
何々目通 一尺 何本

三、開墾ノ方法

四、事業配當程度

初年 何千坪 此數目

二年 何萬坪 同

三年 何萬坪 同

四年 何千坪 同

五年 何千坪 同

合計

五、事業配當程度

初年
木柵若クハ土壘延長何間
此費用金 桁行五間 此建坪拾五坪
牧舎 壹棟 梁行三間 此建坪拾五坪
此費用金 種馬購入 牡馬 一頭
此費用金
初年費用計金何程
二年
何、
此費用金
以下同上
合計金
右之通り候也

右 何 某 印

書式第二號
官有土地貸付願
何村何番地(若クハ官ニ於テ御指定ノ地番)
一、既墾畑地何町歩 目的

但 壹ヶ年貸付料何程

右有償貸付ノ義御許可相成度御許可ノ上ハ官有土地建物貸付假規則及將來發布セラルル規則ハ堅ク相守可申此段奉願候也

明治 年 月 日

原籍
現住所
身分、職業
氏 名 印
生 年 月

權大民政署民政長官何某殿

書式第三號
官有建物貸付願
何村何番地(若クハ官ニ於テ御指定ノ番號)
一露式九太造平家住宅 壹棟 桁行何間 奥行何間
此建坪何拾坪
一附屬 壹棟 同
此建坪何坪 同
一宅地 何百坪 前口何間 奥行何間
一ヶ年貸付料金何程

右建物何々目的ヲ以テ有償貸付ノ義御許可相成度御許可ノ上ハ官有土地建物貸付假規則及將來發布セラルル規則ハ堅ク相守可申此段奉願候也

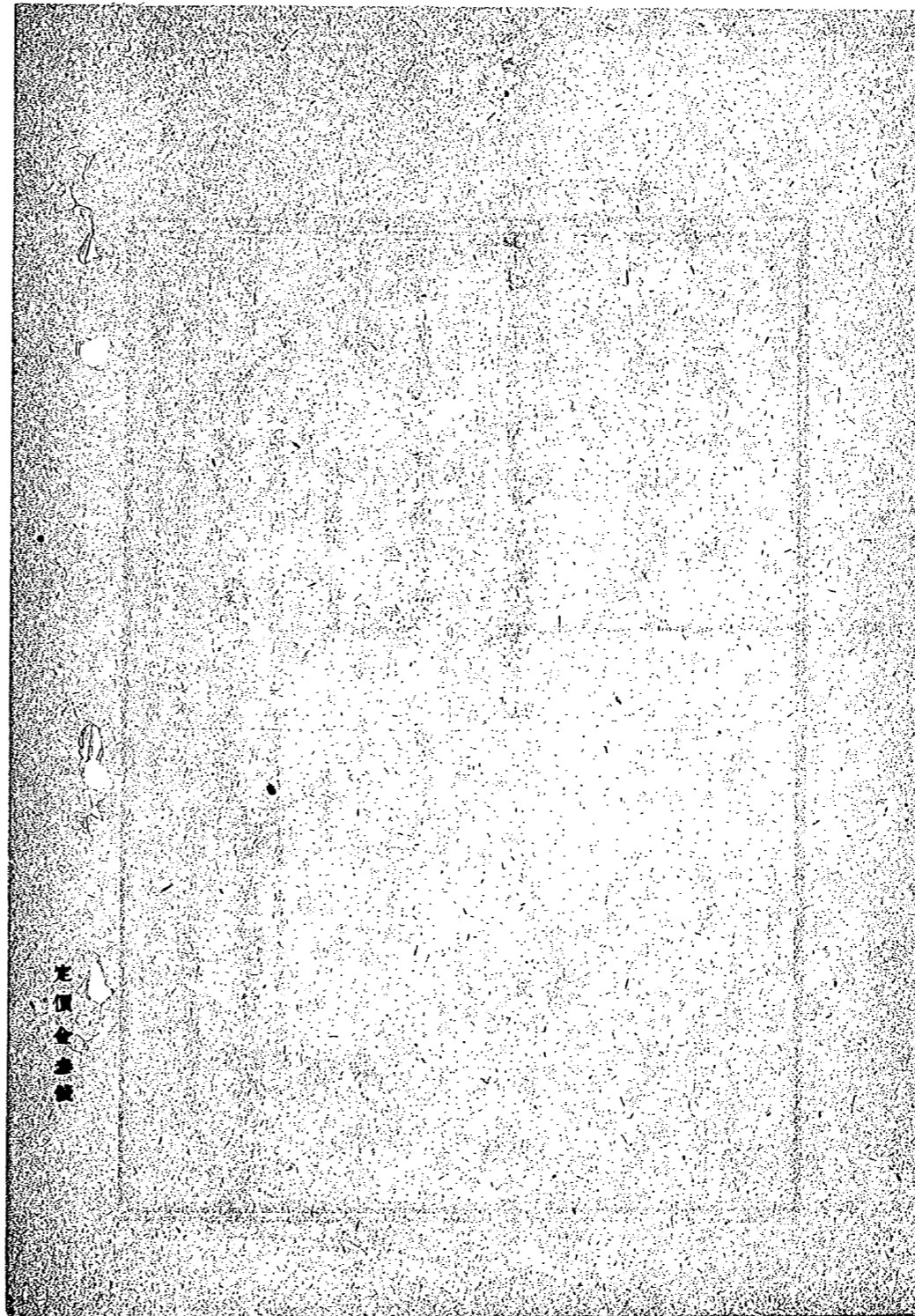
明治 年 月 日

原籍
現住所
身分、職業
氏 名 印
生 年 月

權大民政署民政長官何某殿

正 誤

官報第二十五號掲載署令第十二號第五條及第六條中規定トアルハ規程ノ意



7-0142

0283

樺太民政署官報 第廿八號

明治卅九年四月二十一日 土曜日
樺太民政署

署令第十三號 種子貸與規則左ノ通相定ム

明治三十九年四月二十一日
樺太民政署民政長官 藤谷 善一郎

第一章 種子貸與規則

第一條 官有地ノ貸付ヲ受ケ農業ヲ營ム者ハ此ノ規則ニ依リ種子ノ貸與ヲ出願スルコトヲ得

第二條 貸與スヘキ種子ノ種類及數量ハ一戸分ニ付左ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ム

- 一、大麥 四斗
- 一、裸麥 四斗
- 一、小麥 四斗
- 一、燕麥 四斗
- 一、馬鈴薯 十俵

第三條 種子ノ貸與ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ別紙書式ニ依リ所轄民政署支署ヲ經由シ民政長官ニ

願出テ許可ヲ受ケヘシ

一、種子ノ種類及數量並ニ作付反別ノ區別

二、借地ノ所在地名及其ノ反別

三、住所 原籍 氏名

第四條 種子貸與ノ許可ヲ受ケタ者ハ指定個所ニ於テ現品ヲ受領シ其ノ種類及數量ヲ記載シタル證書ヲ提出スヘシ

第五條 貸與シタル種子ハ五年以内ニ於テ收穫物ヨリ現品ヲ以テ返納スルカ若シ時價ヲ以テ償還スヘシ

第六條 貸與シタル種子ハ目的以外ニ使用スルコトヲ得ズ違背シタルトキハ貸與ノ際定メタル代償ヲ以テ辨償セシムヘシ

第七條 此ノ規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

書式(用紙半紙)

一、種子貸與願

二、作付反別ノ區別

三、借地ノ所在地及其ノ反別



右種子貸與ノ義許可相成度御許可ノ上ハ種子貸與規則ヲ堅ク和守リ可申此段奉願候也

明治 年 月 日

現住所 原籍 氏 名 印

權太民政署民政長官何某殿

署令第十四號 家畜貸付規則左ノ通相定ム

明治三十九年四月二十一日

權太民政署民政長官 熊谷喜一郎

第一條 此ノ規則ニ於テ家畜ト稱スルハ牛、馬及豚ヲ云フ
第二條 官有地ノ貸付ヲ受テ農業ヲ營ム者ハ此ノ規則ニ依リ家畜ノ貸付ヲ出願スルコトヲ得
第三條 家畜ノ貸付ハ一月分ニ付牝牛一頭、牝馬一頭、牝豚一頭ノ割合トス但シ時宜ニ依リ牝馬ハ二戸若ハ

三戸共同ニテ貸付スルコトアルヘシ
牝畜ノ貸付ヲ受ケタル者共同シ番殖ノ用ニ供スル場合ニ於テハ特ニ牝畜ノ貸付ヲ爲スコトアルヘシ
第四條 家畜ノ貸付ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ別紙書式ニ依リ所轄民政署支署ヲ經由シ民政長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
一、家畜ノ種類、牝牛ノ區別及其ノ頭數
二、使用ノ目的
三、借地ノ所在地名及其ノ反別
四、住所、原籍及氏名
五、番殖用ニ供スル爲メ牝畜貸付ヲ出願ノトキハ其ノ貸付ヲ受ケタル牝畜ノ種類及各其ノ頭數
貸付ノ許可ヲ受ケタル者ハ左ノ事項ヲ記載シ指令書受領ノ日ヨリ三日以内ニ請書ヲ差出スヘシ
一、家畜ノ種類、牝牛ノ區別、其ノ毛色、年齢及各頭數(何頭ト記スヘシ)
第五條 貸付シタル家畜ハ滿五年間ニ其ノ生産兒ヲ以テ償還スヘシ但シ償還後ハ貸付シタル家畜ハ借受人ノ所有ニ歸ス
償還スヘキ生産兒ハ生産後滿一ケ年以上ヲ經過シ體格健全ナルモノニ限ル但シ償還スヘキ生産兒ナキトキハ貸付ノ際定メタル代價ヲ以テ償還スヘシ

牝馬ヲ耕作用トシテ貸付シタルトキハ牛ヲ以テ償還シ又ハ代價ヲ以テ償還スヘシ此ノ場合ニ於テモ亦本條第一項但書及第二項ヲ適用ス
第六條 貸付シタル家畜ノ飼養其ノ他受取償還ニ關スル總テノ費用ハ借受人ノ負擔トス但シ償還スヘキ家畜ハ官ノ指定スル場所ニ於テ受渡ヲ爲スモノトス
第七條 貸付シタル家畜ハ隨時其ノ飼養使役其ノ他ノ狀況ヲ監視シ家畜ノ健全ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ相當ノ設備又ハ飼養若ハ使役ノ方法ヲ命スルコトアルヘシ
第八條 借受ケタル家畜斃死又ハ逸失シタルトキハ直ニ其ノ事由ヲ記シ所轄民政署支署ヲ經由シ民政長官ニ届出ツヘシ
第九條 貸付シタル家畜ヲ借受人ノ故意怠慢ニ因リ斃死又ハ逸失セシメタルトキハ貸付ノ際定メタル代價ヲ償還セシムヘシ但シ時宜ニ依リ相當ノ家畜ヲ以テ償還セシムルコトヲ得
第十條 此ノ規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

書式 (用紙半紙)
一、家畜ノ種類、牝牛ノ區別及其ノ頭數(牛、馬、牝牛、何頭ト記載)
二、使用ノ目的
三、借地ノ所在地名及其ノ反別
右貸付ノ義許可相成度御許可ノ上ハ家畜貸付規則及將來發布セラルル規則ハ堅ク和守リ可申此段奉願候也
明治 年 月 日
原籍 現住所 氏 名 印
權太民政署民政長官何某殿

告示第十三號

明治三十九年四月軍令第四十四號ニ據ル土地建物貸付料金ハ左ノ如シ

明治三十九年四月二十一日

權太民政署民政長官 熊谷 善三郎 以下

地名	種目	單位及等級	料金
コルサコフ	蔬菜	一反歩	五拾錢
及大泊	目的既聖地	一反歩	五拾錢
ツラミ	市街附近	同上	上參拾錢
マツカ	市街附近	同上	上四拾錢
一級農村部落	既聖地	一反歩	上參拾錢
同上	既成牧場	萬坪	付參拾錢
同上	建物及附屬	同上	同上
同上	住宅地	同上	同上
同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上

正 誤

官報第二十七號掲載軍令第四十四號冒頭「樺太」ノ二字ヲ
別除ス

同軍令第六條及第十一條ノ但書ハ本文ニ接続スルコト

（一）凡其貸付料金其同表ノ
（二）其貸付料金其同表ノ
（三）其貸付料金其同表ノ

充値金參錢

樺太民政署より支庁長官へ
支庁長官宛書状

支庁長官宛書状

支庁長官宛書状

樺太支庁管内沿岸に於て拾獲
ノ厳禁又犯ス者ハ二十圓以下ノ
罰金又ハ十日以内ノ拘留ニ處ス

明治三十九年四月二十日

樺太民政署より支庁長官宛
事務官 横田 卯助

明治三十九年四月二十日
樺太民政署より支庁長官宛

定備金三錢

横太政署より支署へ戻銀 第五

支署令 第五

支署令第五號
當支署管内沿岸ニ於テ拾獲
ヲ嚴禁スル者ハ三十圓以下ノ
罰金又ハ十日以内ノ拘留ニ處ス

明治三十九年四月二十日

横太政署より支署へ
事務官 横田 柳 助

明治三十九年四月二十日
横太政署より支署へ

支署令

定額金三錢

7-0142

0288